

# 幼児の教育

第五十卷 第一號

日本幼稚園協會



1

# 幼稚園のあり方と全貌の解明書

幼稚園制度研究会編

## 加除式 幼稚園関係法令通達便覧

A 5 判 270頁

## 幼稚園一覽

A 5 判 160頁

- 幼稚園教員養成所一覽
- 幼稚園のつくり方
- 幼稚園に備えなければならないもの
- 幼稚園で認可や届け出を必要とする事項とその届け方

上製美麗二冊箱入 定價 500圓 予35圓

### ☆推薦のことば

文部省初等中等教育局初等教育課長 大島 文義

○幼児教育の重要性が認められて、幼稚園関係者各位には、園の運営や教員の身分資格等についての法令に関する深い知識と理解とが、缺くことの出来ないものとなつたのです。このときに本書が刊行されたことは、まことに時宜に適したものであり、保育界に裨益することがまことに大きいと思われ、本書の刊行を賛同いたし、その活用を期待す。

発行所 東京都千代田区 株式会社 フレーベル館 振替口座  
 神田神保町2の4 會社 東京 19640

全國保育連合會推奨

文 部 省 推 奨

フレーベル式

# 恩 物

(第1恩物より第13恩物まで)

定價2450圓

七 箱 入 一 組

予100圓

フレーベル曰く、『児童は幼年期となれば、其内部的本質を、色々の目的と手段とに随つて、多方面に分割して働かせ、自分の努力によつて其本質を永久的に外部に表現せんと力むるものであります。而して児童は又外界に由つて内界を現わし、かくて内外兩界を統一せしめんとするものであります。人の教育は此の時期から始まる』と(フレーベル『人の教育』より)。恩物は児童の内界を外界に發表する唯一の武器であつて、而も論理的方法であります。即ち恩物に於ては立體より始まつて面、線、點に移り製作方面に於ては、逆に點に始まつて順次線、而、立體に移つています。児童はかく各ダイメンションを有する物體によつて繁簡自由に自己を外界に表わし、かくて内外兩界を統合統一するものであります。

- |         |         |         |
|---------|---------|---------|
| 第一恩物 六球 | 第六恩物 積木 | 第十一恩物 環 |
| 第二恩物 三體 | 第七恩物 色板 | 第十二恩物 紐 |
| 第三恩物 積木 | 第八恩物 連板 | 第十三恩物 粒 |
| 第四恩物 積木 | 第九恩物 組版 |         |
| 第五恩物 積木 | 第十恩物 箸  |         |

發行所 東京都千代田区 株式会社 フレーベル館保育用品株式会社 振替口座  
 神田神保町2の4 東京 38171

# 第五十卷 幼 児 の 教 育 第 一 號

## 目 次

<p>本誌が第五十巻に入るに當つて……………</p> <p>幼児の性格教育……………</p> <p>保育鼎談……………</p> <p>アメリカ童話から(七)……………</p> <p>よき幼稚園……………</p> <p>幼児のリズム指導……………</p> <p>羽根さんと凧さんのお話……………</p> <p>幼児生活の記録の記入についての研究……………</p>	<p>(表紙) 脇田 和……………</p> <p>日本幼稚園協會……………(2)</p> <p>吉 田 昇……………(4)</p> <p>波多野 完治……………</p> <p>多田 鐵雄……………(12)</p> <p>倉 橋 惣三……………</p> <p>松 原 至 大……………(20)</p> <p>及 川 ふ み……………(24)</p> <p>戸 倉 へ ル……………(28)</p> <p>大 熊 米 子……………(32)</p> <p>お茶の水女子大學幼稚園……………(36)</p>
<p><b>記 録</b></p> <p>第一回全國國立幼稚園長會協議會……………</p> <p>官廳公示連絡事項……………</p> <p>昭和二十六年度文部省科學研究獎勵交付金について……………</p> <p>學校における「文化の日」その他國民の祝日の行事について……………</p> <p>會 場……………</p>	<p>……………(46)</p> <p>……………(47)</p> <p>……………(48)</p>

## 本誌が第五十巻に入るに當つて

本誌はこの號を以て第五十巻に入る。創刊後五十年を迎えたのである。

月刊雜誌の發行としては一應長いことといえよう。世界にこの長さの續いている月刊雜誌が幾つあるか知らない。廣い世界、殊に現代文化の相當長い國々では、必ずしも稀ではないかもしれない。我國において、第五十巻の月刊が幾つ現存しているか數えてみたことはないが、明治元年から今年で八十五年の間で、五十年つゞけられているものは我國として長いことといつてよからう。

本會がフレールベル會の名において創立されたのは明治二十九年であり、四年の後明治三十四年一月、月刊「婦人と子ども」を創刊した。本誌の前名であり、これを以て本誌の第一巻とする。先づ當時の保育界の先覺諸氏の熱意に深き尊敬を捧げ、その後本誌を育成して來られた多くの協力者諸氏に感謝を表せざるを得ない。

大正七年、會名を日本幼稚園協會に、誌名を「幼兒の教育」と改め現在に至つてゐる。誌名の改正は、婦人と子ども

もという、稍一般的名稱から、幼兒教育の専門雜誌的名稱に進んだものといつてよからう。「婦人と子ども」時代から、幼兒教育中心の趣旨に變りはなかつたが、それを表面にかゝげたものといえる。而して、兒童教育、小學校教育についての教育雜誌は既に多くあり、また、教育雜誌といへば、小學校教育のものと考えられるなかに於いて、就學前の教育に関する教育雜誌の存在を標榜せんとしたものである。

爾來、その志に對して、その實の甚だ伴わないことを遺憾とし、編集發行の任にあたるもの微力を恥ぢざるを得ないが、各方面の好意と協力については深謝にたえない。殊に、本誌の古き愛讀者各位の終始變らざる友誼に對しては常に感銘してゐるところである。敢て友誼といふのは、その人々の本誌に對する期待が、たゞに讀者としてだけでなく日本の就學前教育のための本誌の存在と使命の助長育成にあることを信じて、その親愛と共に激勵を強く感ずるからである。本誌は常にそれに背かざらんことを期してゐる

がなお一層の友誼を懇願してやまない。

今や、就學前の問題は、その重要さに對する覺醒と共に問題の領域は廣さと深さを日々に加え來つてゐるといつていい。先づ深さにおいて、幼児教育の基礎知識として必要な、諸學の進歩は著しい。その教育の實際についても、益々精深な考究を要する。殊に、新教育の大目的に向つてその基本としての幼児期の重要性は、革新的であるといつていい。その意味において、兒童發達の原理を研究する總ての學問は、本誌の重要な知識であり、新教育の識見と方法とは、本誌の不斷の指導精神である。これを本誌の内容とすることに怠慢であつてはならない。次に廣さにおいて今日の教育觀の擴大と共に、所謂就學前の教育問題は、非常に廣範になつてゐる。或は、就學前幼兒生活のあらゆる面に、その教育的性質と機能とが周到になつてきてゐるといふべきでもあろう。かくて、幼稚園の問題が、その研究において深められると共に、曰く保育學校、曰く保育所、曰く託兒事業、曰く兒童遊園、曰く幼兒文化、曰く幼兒保護これを綜合していえば、幼兒の家庭生活、幼兒の社會生活の一部に亘る教育的考慮は、現實の細密と深刻と、而して之に對する理想の向上とを、日増しに進めてゐるのである。そのすべてを本誌の關心とすることに偏してはならない。

又、これらの幼兒問題の各領域に對して、それだけの分化的研究や推進の努力が拂われているのが、今日の發展で

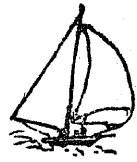
あり、まことに盛觀であり、慶賀すべきである。幼稚園にしても、公立、私立、それらの團體が結成せられ、保育所の團體があり、宗教的團體があり、地域的團體があり、かくして各分化活動による發達が促進せられてゐるのであるが、本誌はそのいすれにも偏せざるものである。そのすべてが『幼兒の教育』の内容事項である以上、幼兒の教育という廣き立場において、すべてが關心事であり、或は、各分化の關係の上に、本誌の小さいながら大切な職分を感じてゐるのでもある。すなわち、本誌は、就學前教育の専門雜誌ではあるが、その範圍内において、一學、一流、一系統に備るものでない。どの角度からでも就學前幼兒の教育的向上に役立つものは、委く本誌の尊重する處である。

第五十巻に入るに當つて、本誌の心にあるものは、回顧よりも展望である。刊行の長さよりも、本會の一活動としての本誌の貴重な使命である。自らの從來の到らなかつたことよりも、それにもかゝらざる多くの誌友への感謝である。更に、發行一時期を迎える日への希望と、努力を怠つてはならないという自戒である。

本誌の多數の友人諸賢の御健康を祈りつゝ、昭和二十六年の新年の辭とする。

昭和二十六年一月

日本幼稚園協會



## 幼児の性格教育

お茶の水女子  
大學助教

吉田昇

一體すべての行動は、みな目的を持つてゐる。それと同様、教育にも目的はある筈である。然るに、今まで、幼児教育の目的はと言うと、それは餘りに漠然としていた。というのは「子供は自由にのばすべきもので、教育の場合目的は持たぬ方がよい」という考え方が有力であつたからである。

かゝる考え方は、昔の教育において、幼児のときから嚴重にしつけて、悪の根源をなくして行つた方がよいという、教え過ぎる教育があつたのに對する反省から生れたものであつた。幼児教育における自由を謳歌する傾向は、フレイベル以來の傳統であるが、最近においても大いに力説されている。二十世紀の初めに、イタリーのモンテッソリーは、貧困な家庭の子供のみを集めて幼児教育を行つた。モンテッソリーは、醫者の出身であつたが「貧困な家庭の幼児でも、自由にのびのびと育てることにより、豊かな家庭の子供に劣らぬ知能が発育する筈である」と考えたのである。一九三六年の著書に「兒童の神秘性」という本があるが、その題名に示すよ

うに彼女の考え方は、兒童の中に神秘性を認めようとしている。つまり「子供は必ず芽生えを持つてゐる。大人はそれを伸ばしさえすればよいので、大人にとつて大切なことは、子供に餘り干渉しないことである。」と言つた考えがあるのである。もとより、モンテッソリー自身のやり方は、決して幼児を甘やかしたのではなく、自由と獨立とは一つの事の表裏であるといつて、壓迫を感じないように嚴格なしつけを行つていたのである。

しかし、このような考え方について見ると、或場合には幼児の神秘性が餘りに強調され、子供自身の中に目的があるのだからと、大人の指導する餘地をなくしてしまふ傾向が見られることが少くなかつた。そして極端な場合には、自由が放任になつてしまふ。従つて幼児の神秘性を認める考え方は、人間社會を明るくする藝術的な表現はあるが、科學的でないというのが正しいであらう。

事實に基づくならば、子供には善も悪もわからない。子供

は基本的な衝動と條件反射のみを持つてゐるのである。これを如何に向けるかによつて、子供は良くも悪くもなる。遺傳はその子供個々により定つてゐるが、環境の方は自由に變へることが出来る。故に、環境をかへることによつて、或る程度まで異つた結果を作り得る。その影響は決して少くはないのである。例えば、一人子には、社會性をつける爲に、友達——しかも成るべくは同年令の子供——を與えるのと、自然の環境のまま放任するのは、その子供の性格の上に大きな相違が現われるのである。

このように幼児教育においても、大人の考へる價值觀念によつて、子供によいと思ふものを與えて行くのがよいのである。自由に放任しておけば、自分たちよりはよくなると考へるのは餘りにも樂天的である。人間の世界は、前の時代のものを次の時代に傳へ、次の時代の者はそれを受け、更に進歩させて行かねばならぬ。それが教育というものである。前に述べた消極説 (Negative theory) ——子供は自身の中に目的を持つてゐる。大人はそれに干渉せぬ方がよいという説——は大人が自分の責任を回避してゐるのだとも言える。大人は、子供を小さい大人に作り上げてはならないが、その逆に放任も間違である。子供をありのままにみつめて、目的をはつきりさせて導いて行かねばならない。大人達の社會が失敗を経験した場合には、その事を反省して、次の世代にその失敗をくり返させぬ様に、注意して積極的に導いて行くべきである。それでは、幼児教育の目的とは何か。勿論、複雑な科學知

識などを教えたりすることが目的ではない。その様な個々の知識や理解でなく、これ等を理解する基礎となる様な態度を作ること、これが幼児教育の目的である。幼児の時代は、性格の發達する時期で、後の生活の基礎となる性格が形づくられる時期であるから、この時代に積極的に、内容のある性格を與える必要がある。單に悪い影響を避けるだけでなく、積極的にどの様な性格が望ましいかを考へなければならぬ。わたくしは、こゝで、かゝる積極的な内容をもつものの例として、ラッセル (Bertrand Russell) の考をあげて見たい。

ラッセルはイギリスの數學者で、後に社會評論家となつた人であるが、一九二六年に「教育論」という本を刊行してゐる。この本は「特に幼児教育について」という副題をもつてゐるが、その中で描かれる幼児教育の目的は、彼の社會的な考へに影響されて、社會との連關が強く意識されてゐる。彼は、幼児教育の目的は性格に重點が有ると言ひ、現在の缺陷を補うために次の四つの性格が必要であると述べてゐる。

- (一) 活力 Vitality
- (二) 勇氣 Courage
- (三) 感受性 Sensitiveness
- (四) 知性 Intelligence

この四つの目標は、それぞれ身體的發達、情緒的發達、社會性の發達、知的發達の四つの面を代表するものと考へられるから、これらの目標は幼児の發達の全面にわたる代表的な問題ということが出来る。ところで、ラッセルは、この四つの

目的が達成されれば、社會の不幸は大部分除去されるといつてゐる。社會の不幸は制度と性格が作り出し出しているので、社會制度が悪ければよい教育は行われぬ。しかし、それはかりでなく、制度だけがよくなつても教育がよくなるなければ、やはり社會悪はなくなる。それ故、彼にあつては教育と制度との改革は並行して考えられてゐるのである。それでは右の四つの目標は、どのような點で社會問題と結びつくのであろうか。この點をラツセルは次のように説明してゐる。

(一) 活力 人間の第一の基礎となるもので、身體とそれに關連して精神的の「活力」は何よりの基である。然るに近代人は次第にこの活力を缺いて來てゐる。この活力を興えることが、幼児教育の一つの目的である。

(二) 勇氣 現代人は病氣等に對し、不必要に恐怖を抱いてゐる。又、社會の惡をよくわかつていても、これを改めようとする勇氣がない。單に權力ある支配者が勇氣を持ち、人はこれに恐怖を抱く。これでは正しい社會とはならない。

(三) 感受性 社會制度や交通などが發達した結果、一つの場所できめられたことが、非常に離れた土地での出來事まで關係するといふような現象が屢々見出されることになつた。この爲、感受性が強くなることは現代人としての資格はない。例えば、統計を見ただけで饑餓の状態に同情出來なければ、現在の社會の冷酷さは是正され得ないのである。

(四) 知性 好奇心は誰でも持つてゐる。之を社會に益するよう導くのが知性である。しかし、好奇心はとかく悪

い方向に進みやすい。これを正しい必要な方向に向けて、どんなことも、平靜な感情のもとで判斷出來るようにならなければならぬ。

以上のラツセルの考えは一つの例であるが、この例によつても知られるように、子供と子供の世界だけから眺めて自由に育てるのでなく、社會と關連させて考え、社會の困難を乗り越える爲の教育を考える態度は必要なことである。幼児の教育に當られる方々は、今までに述べたような目的を參考にしながら、もつと、それぞれの現場に即した具體的な人間像を思い浮べて教育を進めてゆかれることが望ましいのではなからうか。

それでは以上のような目的的教育を行うには如何なる方法をとつたらよいか、その目標一つ一つについて方法の問題を考へてみよう。

(一) 活力について 活力を直ちに亂暴と考へてはならない。活力のある子供がかえつて「おとなしい」こともあり得るのである。フランスの心理學者ジャネー(Jaquet)は、「心理的な強さと弱さ」といふ論文の中で、この問題をとり扱つてゐる。即ち、彼によれば、心理的な強さを示す努力というのは、他の分野のエネルギーを動員してやる力を示している。心理的に強い人は、このようにエネルギーをとつておいて、必要なところで使うことが出來る人である。このように力を他の方から集めてくることも出來ず、又蓄積した力を餘々に



出すことも出来ず、一時に爆發して、後にすぐ力がなくなつてしまふのがヒステリーである。これは心理的な力が強いのではなく、弱いのである。子供はこの傾向があり、すぐにあきたり、急につかれたりする。力を蓄積して、必要な時、徐々に出すことが出来るのが本當に強いのである。

子供がおとなしいという場合には、このように活力があつて、しかもこれをコントロール出来る場合があり得る。これは、よい意味のおとなしい子供である。しかしこれと異つて全然活力がない場合をおとなしいと言ふこともある。後の意味のおとなしい子供、即ち活力のない子供は望ましくない。活力があり、しかもコントロール出来る子供が最も望ましいのである。このように活力のある子供を育てる爲には、食物とか、空氣・日光が重要である。

しかし、子供の活力をつけるのに必要なのは、物理的環境ばかりではない。精神的な環境がこれに劣らない大きな役割を果すのである。精神衛生はこの事實をわれわれに示してくれる。例えば教師に好ましくない子供とは問えば、騒がしい子供だと言ふ。しかし、精神衛生の上からは退行的な子供、活力のなくなつた様な子供がもつとも悪いのである。

活力のなくなつた子供には、身體的虚弱である場合もあるが、そればかりではなく、フロイドの研究したようなコムプレックスによることも少くない。コムプレックスとは、心の衝動（フロイドでは特に性衝動）が抑壓された場合に起るので、心の中にいつまでもわだかまり、活力が弱まる現象であ

る。劣等感といわれるものも、英語では、インフェリオリテイ・コムプレックスというように、コムプレックスの一つである。劣等感は、やはり自分の要求が満たされないことから起る。しかし、例え一つのことやうまくゆかなくても、他の事に普通の行動がとれれば、それでバランスがとれて、活力がなくなるところまではゆかない。これに反して、あらゆることに劣等感を感じる場合には、四方八方をふさがれた氣がして非常に大きなコムプレックスとなる。故に、實際の教育に際しては、できるだけ子供のよい點をみつめてほめてやりコムプレックスを作らぬ様にしてやるのが、活力をのばしてゆく爲に、もつとも大切な事になるのである。

(二) 勇氣について 人間の社會には恐怖というものがあ  
り、権威の前に卑屈なる人間が多い。故に各人が無用の不安とか恐怖とかを起さぬ様に教育することが大切である。勿論、實際の不安をなくすことは更に大切ではあるが、教育の場合には不必要な不安を助長しないようにすることが必要である。人間の感じる恐怖は、次の様に分類することが出来る。

自然に起る必要な恐怖

自然に起る不必要な恐怖

人爲的に起る必要な恐怖

人爲的に起る不必要な恐怖

これらの恐怖をできるだけ減少するためには、次のような方法がとられる。

### 1 人爲的に起る不必要な恐怖を除くこと

例を挙げると、外部から影響されなければ、幼児は暗やみを怖れる本能は能たぬ。ラッセルによれば、彼自身の二人の子供の中、一人は乳母により暗やみに對する恐怖を教えられたという。これは不必要な人爲的恐怖と考えることができる。

また、動物に對する恐怖も後天的なものである。例えば大きな音をたて、馬が走つたため、大きな音に對する恐怖が馬にうつり、馬に對する恐怖となることがある。これは偶然的に生じた後天的な恐怖である。このような現象を、人々が無意識の中に人爲的に作り上げていくことも多い。ある動物を見てゐる時に、周囲の大人が大聲をあげることがあれば、その聲に對する恐怖からその動物を怖れるようになる。

右のような場合、恐怖の必要がなければ、恐れさせぬように育てるのがよいので、その爲には、自然に恐怖の生ずる機会を避けたり、また幼児のそばにゐる大人が怖がらぬことが大切である。「巡查がきますよ」といつておどかすことなどは最もよくないことで、成人して後、權威に對する恐怖を持つようになることがある。要するに、このように不必要な恐怖については、機會や暗示を避けることが望まれる。

### 2 自然に起る不必要な恐怖を除く

理解は恐怖を克服する。故に理解させて恐怖を取除くようにさせる。例えば、動くものに對する恐怖などは、それが何故動くかを説明することによつて、取除かれる。

權威に對して、理解させずに恐怖を起させることが今まで

行われていたが、これは封建社會の制度であつた。この恐怖に對する最もよい方法はやはり「理解」である。

### 3 必要な恐怖を持たせる場合

自然に起るのはそのまゝでよいが、人爲的に恐怖を持たせぬばならぬ場合もある。例えば「崖の上で遊ぶ」ということは、非常に危いが、子供は恐怖を知らぬ。この様な場合には最小限度の必要な恐怖を與えること——理解を主にさせること——が必要である。そして、將來社會に出た時、徒らに恐れていずに、考え、工夫する様になるよう教育することが大切である。それ故、必要な恐怖は、恐怖させることに主眼を置くべきでなく、やはり理解を主とし、できるだけ平靜のうちにはその行動をしなくなる必要がある。以上述べて來たように、恐怖を出来るだけ少くし、理解をもつてこれに代えてゆくという方法が近代的というべきものである。

### (三) 感受性について

社會性というのは、クラブ活動、スポーツ等により養われるので、いわゆる正課では養われないう、というのが、これまでの考え方であつた。そしてその爲に、課外活動(Extra-Curriculum Acting)が重要視され、積極的にやらせるようになっていた、この考え方は現在では一層強まり、その名稱も特別教育活動(Co-curriculum Acting)と言われるようになり、社會性を養うということが次第に正課の中に取り入れられるようになった。

幼稚園では今までの教育が小學校のように讀みかき、算術

などと判きりしていなかつた爲に、現在特に今までと違つた形の教育が行われるというわけではない。たゞ人と人との接觸とか、感受性とかが、今までよりも強調される必要がある。

ルソーは、青年期になつてはじめて、社會に對する感受性が現われると言つてゐる。勿論、精神的な意味での感受性は幼児には望めないが、もつと單純な心理的な感受性は存在しこれが後の精神的感受性の發展の爲に重要なものである。

ラツセルは、自己犠牲 (Self-Sacrifice) は、高い要求で幼児には難しい問題であるが、正義 (Justice) の方は、幼児にも理解を望めることであるといつてゐる。即ち、自分も認め、他人も認めるといふことは、幼児期に芽生え、幼児期に行われるものである。例えば「かわりばんこ」といふ觀念は早くから理解出来る。これが正義の基礎である。故にすべての人間に平等な權利があるといふことを理解させるためには、幼児期のうちから、できるだけはつきりと正義についての考え方を教え込まねばならぬ。

では、これを如何にして教え、理解させるか。

1 子供を増長させぬこと。ほつておけばわがまま (Ego) はとめどもなく増大する。だが、これが増長して來ると感受性がなくなつて、思ひやりがなくなつて來る。わがままに育つた子供は、その子供自身が社會に出る時に、非常に苦勞する。子供はわがままが一度通ると、尙それを利用してしようとする故に幼児の教育に當るものは、子供のわがままと、必要とをはつきり區別して導くことが大切である。

日本の子供の方が、ヨーロッパ人の子供に比べて反抗期の出方がおそく、しかも長いことが知られているが、これは日本では子供だからといつて子供のわがままを許しすぎるからで、ヨーロッパでは、早くから子供の我儘を抑えている爲であると思われる。それ故、わが國では特に意識して、わがままは早くから抑え、正義の觀念を早く植えるべきである。

2 想像の世界に子供を住ませ、次第に現實えコントロールして行くことが望ましい。子供はわがままを抑えられると或種の劣等感を感じるようになる。これは、平等の基礎に立つた場合、自分の權利が、大人と同様には認められていないことを理解するからで、こゝで、子供は、想像の世界に住むようになる。これを補償行動という、つまり、想像の世界に於て、大人と同じ支配力を持つ。故に玩具やお話が、子供にとつては現實の世界と同等以上に大切になる。かゝる想像の世界をもつことは、誤りでなく、必要なことである。しかし、これが想像の世界だけで終り、白日夢に耽溺するようになることは弊害がある。それ故、この想像の世界から次第に現實の世界に引戻して行くことが望ましい發達である。以上述べた二つではまだ公平の觀念は生れない。

3 對人關係——しかも對等な對人關係——がなければならぬ。大人の中に子供がいるのでは、正義の基礎は出來ない兄弟姉妹があれば、或程度は與えられるが、しかし兄弟の場合、年令的に差があるので對等とはゆかない。同じ年令の子供が集つて生活をする事が必要で、幼稚園や保育所は、そ

のような觀念を興え得る最適の機會を持つてゐるわけであるしかし、ただ集つただけでは駄目で、常に適切な指導が必要であるが、それも常に先生が、先に立つて、わがままな子供を抑えたり、平等にしたりするのは、興えられた正義で役に立たないから、子供同志がお互に、相手の立場を考えて平等にして行くように指導することが望ましい。

子供に正義の念を興えるためにラッセルが最もよい方法として擧げるのが、構成遊びである。子供の中には、破壊ばかりしている子供もあるが、それが自分で何かものを作れるようになつたり、作つた經驗を持つ様になると、始めて人のものを大事にするという正義感を持つようになるのである。構成的活動というが、必ずしも物を作らなくてもよいので、お話でも、遊ぶことでも「まとめる」ということをすれば「こわさずになりたい」という考え方の基礎となるのである。

幼稚園では、よく砂場で遊ぶが、人の作つたお山をこわしてばかりいる子供がある。この様な子供も一度自分で砂遊びが出来ようになると、殆んど他の人ののをこわさなくなる。これに反し、集團でする競争は、自分のグループには構成と、他のグループには破壊を望む點で、両者が混合してゐると見ることが出来る。それ故、この場合相手をこわすということにのみ力が注がれると、正義からは遠ざかることになる。相手を悪く言つたり、輕蔑したりするようなことは、教育のやり方としては絶対に避けなければならぬ。

#### (四) 知性について

人間の知性は、大人になつてから芽生えるもので、子供の時は遊んでいればよいと昔は言われた。しかし、その後、考え方が變り「知的な判断」とは、長いこと實際の行動の中で訓練されて、それが基礎となつて始めて發達して行くものであると考えられる様になつた。具體的な思考は、大人の社會を正しく運行させてゆく爲に抽象的な思考よりも、大切である。それ故、幼児期においても、知的訓練を興えることは非常に大切である。

知性と知識とは異なるもので、知性とは考えること、知識とは考えた結果を知ることである。子供の言葉により、それが知性であるか、知識であるかを區別することは、非常に困難である。

子供の本當の知性というのは、大人から興えられることから始まるのではなく、問題に感じるといふ洞察から出發しなければならぬ。

デューイは「いかに思考するか」(How we think)という本の中で、

- 1 困難を感じる
- 2 問題の所在を明瞭にする
- 3 可能な解決の示唆
- 4 示唆の論據の検討
- 5 檢證と承認乃至否定

の五項目をあげ、具體的な思考は、以上の段階を通して行わ

れると述べている。

子供にかゝる具體的な思考をさせ、それが成功する時の喜びを味わせねばならない。この喜びが、彼に物事を多く思考させ、知性を發達させる。子供がいろいろのことにぶつかり、困る機会を與えることが必要である。これは、子供に「考える」ということを教えるのであつて、子供が考へて行つべきものを、大人が先んじてやつてしまつては何もならない。子供に代つてやりたい氣持は、本能的に存在するが、これを抑えて子供自身に問題を解決させなくてはならない。その爲には

1 やたらに困らせぬこと、餘り多く困らせると、考へる勇氣を失う。

2 問題の選擇 子供自身に解決出来る問題と與える

3 問題解決の手段を與える。しかし、餘り早く與えずぎぬ様、又與え方を常に考へ、先生の考へ方によつて與えるのではなく、子供の考へ方によつて、それを助けるように與えるのである。

このような考へ方に對して、子供は何も教へられない間は何も考へることはできないという考へも存在する。こゝで知性と躰について兩者の關係が問題となるのである。

この點については、次のように考へられる。實際の事を解決するには、洞察がなければならぬが、子供が問題を取上げ、それを解決しようという時は、それまでに身につけたものをもとに行う。即ち、躰とか習慣とかがなければ、人

間は問題を解決することは出来ない。しかも、躰とは、他から與えられたものもあるが、自分が思考し、解決した事についての躰もある。即ち、自分が解決したことをくり返し、練習し、それが習慣となつて定着し、次の問題解決に役立つこともあるのである。この二つの中では後者の自分で解決したことについての躰の方がより望ましいのである。教育においても、餘りいそいで、多くのことをしつけようとするよりは子供自身が自分で意味を發見したものを繰返して身につけるような躰が中心を占めなければならぬと思われる。

以上、ラッセルの幼児教育の目的を中心として、その方法を最近における研究を参照しながら吟味して見た。私は、これまで述べて來た目標や方法が、幼児教育の動かすべからざる内容であるとは、決して考へていない。ラッセルが教育論を書いた時と現代とは、時代も異つてゐる。またわが國は敗戦といふことも經驗してゐる。それ故、教育の目標の上でも、これらの社會事業を反映した新しい目標が、考へられるかも知れない。たゞ私は、このような新しい目標を考へる場合にも、ラッセルの所論は、幼児教育と社會との連關について極めて積極的である點で、参考になるところが多いと考へたのである。われわれは、われわれの經驗を通じて、幼稚園教育の中に、はつきりと積極的に、望ましい目標を指定し古き世代から新しき世代への責務を果すべきではないかと考へるのである。

# 保育鼎談

お茶の水女子大學教授  
本誌協力委員  
波多野完治  
文部省調査普及局文部  
事務官本誌協力委員  
多田鐵雄  
本誌主幹  
倉橋惣三

日時 十一月八日  
場所 フレーベル館

倉橋 きよりはお忙がしいところワザ／＼  
どうもありがとう御座いました。きよりの  
話題というものは別にこれといつて決まっ  
ているわけではない。波多野さんが先達ア  
メリカに行かれて教育關係の色々なるもの  
を見てこられたと思うが、その新しいところ  
をモトにして、日本の幼稚園というものを  
考えてみたい。又多田さんは、日本の幼稚  
園については長い経験と共に廣い調査から  
くわしく實狀に通じていられる、そのおふ  
たりを組みあわせていたゞいたら、必ず有  
益のことを伺える、マア、そんなところを  
話をすゝめてゆきましよう。

まつ波多野さん、向りの幼稚園を見てこ  
られた大よその感想といつたものを一つ、

## アメリカの幼稚園制度

—— 小學校と幼稚園 ——

波多野 向りに行つて廻つて見て色々感ず  
る事が多いのですが、大體向りの幼稚園は  
小學校に附設された幼稚園が本體である。  
獨立したものは少ないようです。日本でも  
小學校附屬の幼稚園というものがあつたが、  
それが本體というわけではない。日本は獨  
立が本體であると思ひます。これは幼稚園  
というものゝ在り方に、また本質にもいろ

／＼大切な關係をもつことになると思つて  
第一に考えさせられて來ました。この問題  
はどう——(倉橋氏の方を向いて)——お考  
えになつていますか。

倉橋 それは前からもある問題ですがね。  
實際としてはどうしたら最もよく實狀にそ  
うかということになるではないでしようか  
丁度、こないだのアメリカ第二次教育使節  
團の提言には「幼稚園を小學校のパートと  
して設置すべきである」ということがいわ  
れてゐる。そのパートというのは一體どう  
いう意味を含むものか。特に設置といつて  
あるのだから單に教育のシステムの中に入

れるという意味ではあるまい……。ですが今の我國として獨立設置がいゝか、合併設置がいゝかということ、どつちにしたら現状によく合ふかということに關係するでしょう。合併設置がいゝとしても、今日の日本でそれを實行するにどんな難點があるか。

多田 波多野さんは向うでどんなところを見てくれましたか。

波多野 ワシントン、ニウヨーク、シラキウス、インデアナ、シカゴ、カリフォルニアといったところを廻りました。

多田 我々がアメリカの幼稚園というものを考える時、一言でアメリカの幼稚園はこうだと片づけられないものがあるように思うのですが。東と西、南と北という風に地域的にずい分違いがありませんか。例えば教員の俸給なんかの統計をみても、州によつて違つている。その他の點でも地域的にずい分違いがあるでしょうね。そいつた點は實際どうでしょうが。それから先刻お話をパートという點についてですが、アメリカで幼稚園を小學校に附設されているのは、管理という問題、科學的管理——特に

經濟的な問題とも關係があるのではないですか。この經濟的管理ということでは、カリフォルニアあたりでは、幼稚園は二部制をとつているが、これはアメリカの子供は五時間も六時間もつゞけて、幼稚園におくことは困難だ。せいゝ二三時間位、そうすると、あとの時間が空いて無駄になる。そこで二部制ということになつたと思うのですが、こういつた風に、條件によつて制約されたものもあるのじやありませんか。

倉橋 今の問題はいろゝゝな關係があると思うが、多田さんの今いわれたことは、カリフォルニアだけぢやないでせう。

波多野 ニウヨークの郊外でもそうだし、シラキウスでも、又シカゴでもそうです。向うでは大體通念になつているといつていゝでしょう。

### 義務制について

倉橋 小學校と幼稚園が別々なのが普通だつた頃から、それをくつつけるべきだといふ考え方で「キンダーガルテン・エント・プライマリー・グレード」といつて、幼稚

園と低學年とをいつしよに設置する主張も實際にアメリカにありましたね。ところで幼稚園といへば施設として考えられることが一般だが、方法の名——キンダーガルテン・メソッドとして考えられることもある方法としては、幼稚園と低學年の連絡が問題になつて来るがパートならば連絡問題はない譯になります。それから今、幼稚園の「義務制」とか「準義務制」とかいつた言ひ方をして、「義務制」にもつて行く道をつけているものとも思う。

波多野さん、向うの幼稚園の大きさはどの位のもんです。

波多野 一年生と同じだと思つて、五十八位、あるいはそれ以上。先生は大體一人に二五、六人受持つ程度の制です。それから今お話が出ました「義務制」ということなんです。日本の場合にはこれは相當問題ぢやないかと思つて、戦争中に、軍閥の強制的な教育方針に對して、教育の原理から最もつよい反撥をしたのは、幼稚園側でした。これは日本教育史上非常に注目すべき事だと思ふんです。そんなことを考

えても、今、幼稚園を義務制ということにして、それが小學校なり何なりの中に併合されるということになると、小學校長の管理の下におかれることになる。そうすると「新教育」の流れというものが、それによつて果たして發展するか、どうか大いに疑問だと思ふのです。

倉橋 これは重大な問題ですね。そうしますと波多野さんの考えとしては、幼稚園は幼稚園として獨立に設置されている方がいいことになりませんが、どうでよろしいかね。

多田 その通りだと思ひますね。日本の現在の状態では、幼稚園は制度としても未發達の状態にあります、これは全國における幼稚園の分布状態を見てもわかると思ふ。こういう未發達の制度にあるものを取扱うには特別の考慮が必要です。小學校にクツつけてもいい。そのパートという意味でない限りで、……と考へます。

倉橋 現に公立小學校の中にある幼稚園は澤山ありますね。

多田 そういうこともある反面、六三制實施のために幼稚園が犠牲になつてゐる所が

ずい分あります。

波多野 そこで實際案としては、新しくつくるところでは「パート」としてつくる。しかし今までもあるものには特殊の意義を認める。

### 日本社會の特殊性と

#### 幼稚園の在り方

多田 日本の幼稚園は制度として未發達なためもあり、幼稚園の性格というものは確立が充分出來ていない。そこが向うの幼稚園とちがうことじやないですか。日本の幼稚園はその性格として、保育所と混淆状態にある。一應は幼稚園と保育所とは別の性格をもつ建前になつてゐるけれど、實際にはそう嚴密にそれを貫徹するものではない。そこに幼稚園保育所一元化論の根據もあるわけですが、こゝした問題がある限り、幼稚園を小學校のパートとしても、保育所がある。これをどうするか。

倉橋 多田さんの意見としては、幼稚園は今の社會的使命を果たす上からいつて、すなわち現状に即しては、パートとならん方がいいというお考ですね。

多田 先ず幼稚園というものは性格をハッキリさせる事が必要ですね。重要産業には補助金を出しているが、大切な幼稚園教育のためには補助金を出さうとはせぬ。教員の給料の問題だつてそうだ。小學校は國庫負擔、幼稚園は市町村負擔、何でもそうだ。そこで私はこれは規定で決めるべきものぢやないと思ひますね。先にすゝむものはアメリカ風にやつたらいい、一般的議論としては教育科學的な見地からの研究がもつと必要です。アメリカのナーセリー・スクール——キンダーガルテン——ブライマリ・スクールという系列の各々の在り方を日本の實状について、研究しないで、結論はむづかしいでしょう。第一、六三制というのがまだ確立してゐない。先ずこれがもつと年月をかけて充實したものになるのが第一です。

倉橋 アメリカにはパートになつてゐる幼稚園もあるのですか。

波多野 サア、幼稚園だけが獨立したものは一つも見ませんでしたか……

波多野 それから此の問題の一つはアメリカの家庭生活と日本のそれとのちがいにあ



ると思えますね。日本の家庭においては、母親が時間的に又精神的に子供の面倒をみてやる餘裕が非常に少ないのです。アメリカではそれが充分ある。そこで原則としてアメリカでは子供をソウ長い時間幼稚園においておく必要がないという考えが成立つ日本では、極く下の方の階層の家庭にそういふ餘裕がないことはわかっていますが、かなり上の方へ行つても、家庭教育の補いを幼稚園につけてもらいたいという考えが支配的だ。日本の主婦の過重負擔ということとを考えると、アメリカのように短いのは考えものです。

### 經費の問題

多田 制度上パートになるならんにせよ、我國の幼稚園の在り方は、これでいゝといふわけでありませぬ。これでは困るといふ點もあるでせう。例えば先刻の素質の問題なんかどうですか。私の見たところでは本當に幼稚園の先生として適格性をもつてゐる人は、十人の中三人位しかいない。あとは空しく努力しているという感じです。

だから新しい教育原理の講義などは大いに熱心に聞くけれども、それを木當に生かすという點になるとどうかと思う人もある。こんな事で、パートになるといふ場合困る人もあるでしょう。

倉橋 ミツシヨンは小學校を教えることが出来る位の人が幼稚園の先生である事を希望している。そうなつたらこの問題も解決が早くなる。

多田 素質の問題は、經費の問題とも關係します。國や自治體で出してゐる費用は、小學校の方は児童一人當り年四四一三圓、幼稚園は三五九〇圓、大分ちがいます。待遇がわるいからいゝ人があつたらぬということもあります。

倉橋 波多野さん。アメリカの幼稚園と日本の幼稚園で一見して違ふと思はれる點は……。

波多野 各部屋にトイレットがついてゐる幼稚園の場合には、これは大切なことですがね。

多田 もう一つパート問題ですがね。パートというのは理想的かも知れない。しかしこれは輸送の問題を解決しなくちゃ。スク

ール・パスの問題が完全にならなけりや。通學距離を短かくするという配慮がなければどうにもなりません。

### アメリカの幼稚園の保育の實際

倉橋 波多野さん。設備の外にですね。向うの幼稚園を見られて、實質的にこれは日本の幼稚園と大分ちがうなと思ふような點、アメリカ人風にいへば、ワンダーフルと思われた點——それについても小さいことは色々ありますが、これは單に程度上のちがいで、本質的に違ふと思はれることがありましたか。

波多野 中學校、高等學校の場合は、これは桁がちがうという感じがしましたね。しかし幼稚園の場合は、これはとてもかかわんという感じがしませんでした。日本の幼稚園も大抵この邊までは行つてゐるという感じですよ。設備の點については勿論大いに改善の餘地はありますがね。

倉橋 精神においては劣つてない。根本的に考え直さねばならぬとする點があまりないという譯ですか。

波多野 それからこれは小さいことですが

日本の幼稚園とちがうと思つたのは、先生のお話を幼児らが座つて聞いていることですね、お話の時は保育室の床にすわつています。その他にもすわつてゐる場合がかなり多いですね。

倉橋 そういうとき、銘々が小さいわらの圓座を使いますね。圓座がなくても床がきれいですが、ところで向うで、椅子から下りて座らせるというころもちは、どういうところにあるのでしょうか。

波多野 つまり一言にしていえば、日本の子供はあまりに行儀よくさせられすぎているところからぢやありませんまいか。そういう觀念から見ると、向うで座わるということがこつちとは逆ですからな。

倉橋 向うで椅子から下りるといふことがどうしていふことなのか、それをハツキリさせないと、——日本流には座るといふことは行儀をよくすることだからな。

## 座わるという

### ことの意味

多田 私の園では小さい子供は塵の部屋においであります。子供は座るといふのが

ナチュラルではないか。結局、向うで椅子から下りるといふのは、向うでも小さい子供は絨氈とか、ソファの上とか又、庭なんかに座わつてゐることの方が多ぢやないか、そんなことなんでしょう。

倉橋 田舎のパヤサンが汽車に乗つても、シートの上に座るといふようなものかなそれがナチュラルなんです。同時に、お話の場合なんか親し味の感じがするでしょう。それから波多野さん、私がアメリカに行つたのはずいぶん古い話だけれど、あちらの幼稚園は自由の中でも、キチンキチンと秩序づけられてゐるように思つた。そういう點はどうですか。今もそういう風ですか。

波多野 サア、ゆつくり見ないからヨクわかりませんがね。

倉橋 先生のプランと、子供が自分の心でやる中に調和がとれてゐる。形の上だけを見ると何かルーズみたいで、しかもだらしくくない。

倉橋 向うの設備はいふですね。

波多野 しかしお茶の水位になりや差はありませぬよ。たゞ向うではチャンと粹のつ

いた子供が取扱えるような建築材料があつて、それを保育に使うんですね、實際に子供の家がそれで出来るようになってゐる。子供の乗れる汽車もある。

多田 大正幼稚園では本物のトロツコをそのまま、勿論レールをしいてですが、それを持つて来た。そういうこともあります。

波多野 ネテジが各教室にある。人形芝居なんかそこでやるんですね、日本の保育室にはないようだ。それからこれは大學附屬の幼稚園の話ですが、観察室があるんですね、保育室の裏側の方に、子供からは見えないが、ワン・ウェイ・スクリーンをつくつて、教生だとか研究者がそこから見る事が出来るようになってゐる。

倉橋 それはお茶の水にもある。ところでアメリカの幼稚園に何を學ぶかの問題ですがね。

## アメリカの幼稚園

### に何をまなぶ

多田 日本の幼稚園は脱皮せねばならぬところが多々ある。何といつても昔の型式主義がまだある。

倉橋 日本の幼稚園には差が大きい。施設も實にマチ／＼です。子供の幸福の公平という點からいつても重大問題だ。そこで波多野さん、アメリカの幼稚園教育で最も重きをおいている點は……

波多野 それはこういうことぢやありませんか。アメリカの幼稚園の保育方針というのには、根本はセキユリテイ（安全感）Security ということです。躰けはおのづから生れてくる。そして「しつけ」というと劣等感が生まれてくる、という點は日本の行き方と違つてゐないかと思ふ。

倉橋 そのセキユリテイというのをまつとくわしく話して下さい。

波多野 セキユリテイというのは安全、安心という種の意味でしよすが、セーフテイというのとはちがう。何といひますか、自分というものを完全に發揮して社會に十分貢獻することが出来るようにするために、自分のやることに自信がなければいけない。その基礎になる心構えというか、心理的態度というが、そういつた意味合いのことなんです。このセキユリテイの問題は、年齢がすゝめばあまり問題にする必要

はない。自我の獨立ということが出来上りますからね。小さい中は困るんです。このセキユリテイをもたないと、しよつちゆうおどおどしていることになる。それでは困るといふんです。安全といつても自分の安全を守る教育というのとはちがう。例えば電車なら電車に對して、單にセーフテイといふだけのことなら、電車は危いから近よつてはいかんという風に教へればいゝかも知れないが、しかしそれではセキユリテイが形成されない。電車はこういふもので、こういふ場合は危いものだが、そうでない時は危険なものでないといふ風に教へて、電車に對して自信をもたせるようにする。

これがセキユリテイです。それから幼児の要求といふものについても、これを欲求と本當の要求とにわけて考へて取扱ふ。例えば菓子なんかの場合、實は腹がくちくて本當は喰ひたくないにもかゝらず、眼で見ることによつてある種の食欲に似たものがおこる時がある。そういう欲求はおさえてやる方が正しいといふ考へ方なんです。又、要求には生理的なものと、社會的人格的なものがあるが、ある場合には生理的な

ものを抑えてやる方が、却つて社會的人格的なものを充たす所以であるといふような考へ方、そういつたものがセキユリテイです。これがアメリカの保育思想の根本になつてゐる。こういう理屈は參照しただけではわからぬ、本をよまねばわかりませんが。

### 文字を教へることの可否

倉橋 保育のための具體的實際としては：波多野 保母が幼児に對していつも落ちついてユツクリ物をいうこと。さわがしく動かぬこと、だから保育室の感じが全體的に和やかで靜です。これはセキユリテイの養成に關係があると思ふ。心が充ち足りてゐるから靜かになつておられるぢやないですか。倉橋 そういふ保育でも discipline ディシプリン(躰け)といふものはあります。波多野 それはあります。倉橋 しつけといつても禁止的なものぢやないでしよ。波多野 それはありません。倉橋 菓子がぐいいたくなるといふことはよ

い。しかしそれを喰つたら叱られるという考え方をさせるのはわるい——つまりそういったことですね。

波多野 子供は適當に甘えたいという時もあります。それを察してやる事が大切です。

倉橋 日本ちやそりいつた點はあまり考えないよつだ。

多田 波多野さん、幼稚園で文字をおしえることによしあしですがね。日本では大體教えなくてもいゝということになつてはいるけれど、向うはどうなんです。

波多野 文字は教えているようです。しかし響けるということを主眼にしていない。字をかいた札をもつて掛けておしえている。讀めるように導いてやるんです。しかし無理に教えるということはないようです。自然に要求が出て來たら、それをみちびいてやるという風です。

### 幼稚園の視覚教育

倉橋 波多野さんの視察の主目的は視覚教育にあつたのでしょうか。澤山翻られたでしょうが、幼稚園ではどうです。

波多野 そうですね。幼稚園で使つてはいる幻燈と映畫を見ましたが、映畫は小學校で使うものと、幼稚園で使うものとはちがう幼稚園で使う映畫は教えるということを狙としない。見ていたのしいいということを目とすると。動物がおおいですね。動物の生態を主として、大體皆色彩映畫です。内容は劇的な構成をとつてはいる。年長になると、必ずしもドラマチックということに拘泥しませんが、下の方は非常にドラマチックな構成をとる。これは大きな特色です、私が見たものにこういふのがあつた——

三人の子供がいる。それが母親のために誕生日が何かのお祝でしようが、金儲けをする話が出てはいる。一人の子供は煙突掃除をやつた。他の子供は花を買つたり、もう一人はペンキ塗りの手傳をやつた、ところが面白いのは、煙突掃除をやつた子供が、眞黒になつて出てくる。すると「この色は何色でしょう」という問いが出る。又、ペンキ屋をやつた子供は、紅なら紅をぬると

します、同時に「この色は何でしょう」といふ工合にして色をおしえる。——これは面白いと思ひました。

色彩は非常にやわらかです。一昔前の繪本を見るとわかるけれども、あまりにリアリステイツク(現實的)といふことを追いつて、何か固くなるしくなつてはいる。今日は少し位デフォルム(變形)されてもいゝから、出来るだけやわらかい色調を使うといふことになつてはいるようです。

倉橋 總覽教育の方はどうです。

波多野 あまりきまませんでした。しかしおそらく何枚かの映畫を見せて、同時に音をかかせて視覚との關連においてやつてはいるだらうと思ひます。

倉橋 漫畫はどうなんです。

波多野 あまり問題はないと思ひ。漫畫は上の方、年令の高い方には非常に関連があるが、幼兒には左程でもありません。

倉橋 いろ／＼とアメリカ幼稚園の話聞くことが出來て實にたのしかつたですが、最後に、これは保育とは關係のない事だけれど、アメリカ視察において一番感心したことは——

波多野 サア、何だらうかな。おどろいたのは鏡ですよ。向うから人がやつてくる。よくみるとそれが自分なんだ。實にハキツ

リとよく映る。おどろいたな。(笑)  
倉橋 鏡を感心したというのは何か變だ  
たのしかつたのは——  
波多野 やつぱり喰い物でしたな。(笑)

倉橋 アメリカ人はどうです。  
波多野 全体として非常にホスピタリ  
ティをもっている。一言にして實にいふ印象を  
與えられてたのしかつたといえる。

倉橋 どうもいろいろとありがとう御座い  
ました。  
(記録責任者 西山浪太郎)

評

酒田 富 治著

### 『幼児に聞かせる音楽』

書

フレーベル館 發行  
B6二〇二頁 定價一五〇圓

著者酒田氏はながいあいだ幼児や兒童の  
音楽指導の實際にあたつて來た先達であ  
り、東京都の高等保育学院で保育の養成に  
も關係して居られる、そしてその多年の經  
験と蘊蓄によつて、文部省の「幼児のため  
の音楽リズムの本」の作製の委員會の委員  
としてもずつとつづくて來られた方である  
いままでの幼児の音楽教育に於てはただ  
歌うことだけが中心になつていて、ほんと  
の音楽教育が行われていなかつたことは、  
いままでもたび／＼指摘されたことである  
だから新しい「保育要項」において昔の保  
育項目の唱歌という言葉が無くなり、保育

内容としては音楽が入れられた。そして、  
歌うことだけでなく聴くこととならんで、  
きくこと、が重要視されるようになった。  
實に聞くことは音楽教育の第一歩であるとい  
つてよい。所が聞かせるには幼児に適す  
る音楽を聞かせることが大切であり、また  
聞かせるための扱い方が大切である。この  
意味で保育要領には、幼児のための鑑賞レ  
コードがのせられ、聞かせ方の根本方針に  
ついて述べてある。また今度出ることにな  
つている文部省の「幼児のための音楽とリ  
ズムの本」にも聞かせ方についていろいろ／＼  
のことが詳しく述べられているわけである

酒田氏のこの著は、このように大切な意  
味を持つている幼児に聞かせる音楽につい  
て、我が國においてはじめてものされた書  
物である。育児と音楽、聞くことを好まぬ  
子等、幼児の音楽の聞き方、心理に即した  
音楽教育、音楽を聞く機會、家庭での音楽  
の聞かせ方、幼稚園、保育所での音楽のき  
かせ方、レコードの選び方、レコードのわ  
け方の九章にわたつて實に詳しく具體的に  
實際に即して述べられて居り、最後に聞か  
せ方のいろいろな例として、文部省制定の  
幼稚園鑑賞用レコードの扱い方が一曲こと  
に詳しく述べられている。  
幼児の音楽教育ということを少しでも考  
えるひとは、教諭であつても保育であつて  
も、母親であつても、この書を讀まなけれ  
ば音楽教育のことを語る資格はないと言つ  
てもいい。あえて保育の仕事にたずさわつ  
て居られる方々に廣くすすめたい。



ア
メ
リ
カ
童
話
から
7

松原至大

うさぎの鼻はな

あるところに、十匹の子うさぎを持つたうさぎの一家がありました。ある日のこと、お母さんうさぎが、このように申しました。

「さあ、しつかりと目をあけて、御自分のまわりにあるものに、よく氣をつけるですよ。今日は森のこわい小人こびとが、食物を探していますよ。小人は、とてもうさぎのパイが好きなのですよ。お母さんがこういつても、お家には小人の食物にあけてしまうようないたずらものが、いるというのではありませんよ。」

こう言つてからお母さんうさぎは、子供たちをやさしく見まわしました。

「ねえ、ジャキーちゃん、あなたは特別、氣をつけなければいけませんよ。あなたはよく一本の足で鼻を暖めて、もう一本の足ですわる癖くせがあたりですから。」と、お母さんうさぎがいました。

「でも、ほくの鼻は冷たいんだもの。」と、ジャキー君が答えました。

「わかりました。ではお母さんが、できるだけ早く鼻はなを編あひんであげましょう。けど、それができるまでは、よく氣をつけなさいよ。お顔をおさえていては、まわりになにかあるのか見えやしませんよ。お鼻が冷たくなつたら、お家の中にはいりなさい。」

「ほく、氣をつけます。」と、ジャキー君は約束をしました。そして小さなピンクの鼻に、しわをよせ七、お母さんにキスをしてから、朝の食物を探しにとんで行きました。

ジャキー君は、雪が好きでした。よく雪の中にすわつてみると、やわらかな白い尾をつけた小さな灰色のものが、一匹の子うさぎであるのか、それともなにかほかの影なのか、見わけのつかないことがあるのでした。

その日も前の晩に、雪のやわらかな毛布がしかれてあつて、ジャキーは大喜びでした。おもしろい小さな足跡をつけたり、こんな楽しい歌をうたつたりして、とびまわりました。

「おや、おや。」

おや、おや。

うさぎのペイなんかには、

なりたくないよ。」

ジャキーは、おなががすいていました。皮をかじつて、木から木へ移りました。はねたり、食べたり、うたつたり、とんだりしました。すつと前から、ジャキーの鼻は冷たくなつていました。けれども、お家にはいるのがいやでした。お母さんが早く、鼻營はなもとを編み終ればよいなと思ひました。

「ジャキーちゃん」と、兄さんの一人が言いました。「君、お家へ行つて、鼻を暖めた方がいいよ。」

「そうだね。」と、ジャキーは言いましたが、そうはしません。鼻はますます冷たくなつて、もうぢつとしてゐることができなくなりました。

「ほく、ちよつとおさえていよう。だれも来やしないや。」

そこでジャキーは、雪の中にすわつて、一本の足を冷たい顔にあてました。そのうちに疲れがでてきて、眠つてしまいました。

ちようどその時、森の小人がそのそと歩いてきました。ジャキーを見つけると、すぐに立ちどまりました。

「やあ、おもしろい影だな。鼻の上に足を一本のせて、うさぎが眠つてゐるようだぞ。」と、小人が言いました。する

とジャキーが動いたので、小人が叫びました。

「やつ、うさぎだ。」

この聲を聞いて、ジャキーはとび上つて、兄さんと姉さんたちを探しました。けれど、だれも見えないのでした。ジャキーが逃げ出そうとすると、小人はとてもしばやいのでした。ジャキーが、あつと思つた時は、もう自分は小人のとながり帽の中に入れられて、森を運ばれて行くのに気がつきませんでした。

「お前を見ると、おなかの虫が、くうくう言うよ。お前をつかつて、どんなおいしいパイができるかな。早くお家へ連れて行つて、夕食にしよう。」と、小人はとんがり帽の中の子うさぎをのぞいて、意地悪そうに言いました。

小人は子うさぎをかかえて、森のはずれの小屋にもどりました。裏口の階段をのぼつて、くつをぬぎました。

「ああ、どんなパイができるかな。」と、小人がまた言いました。「わしが、火をおこす間、この裏口にお前をおいておこう。ここは仕切りがあるから、外には出られないよ。」

ジャキーの小さな心は、しよげてしまいました。ジャキーは、小人の夕食などにはなりたくないのでした。ひとりぼつちになると、小つぶの涙がぼろぼろ鼻の上に流れました。

しばらくの間、そこにすわつて、お母さんうさぎのことを考えていました。いつもお母さんが、目を大きくあけて、あたりのことにお氣をつけないさいよといつたことを思い出しました。そこで、あたりの様子をながめました。

仕切りに穴があいてはいないかと探しました。けれど、穴はありませんでした。ジャキーは、自分で一つ穴をあけてみようと思いました。だが、歯が小さすぎて、だめでした。しかたがないので、眠ろうとしました。だが、心配で眠れません。その上、あかりが目につりました。もつといけないことには、また鼻が冷たくなつてきたのです。

ジャキーは、はねてみました。すると突然、今までに見たこともない二つのものが現れました。それは變なものでした。なんといつてよいかわからないので、ジャキーは「二つのなにか」と名づけました。それは、戸のそばにあつたので、ジャキーは、においをかぎました。足でさわつてみると、かたいので、兩足をその中に入れてみました。

おや、でもそれは、きれいで、暖かでした。まるでうさぎのお家の穴のようでした。冷たい鼻を入れるにはまこ



とにおあつらえのように思えました。そこで中にとびこんで、からだをまるめました。もしもジャキーが、パイにされようとすれば、よい氣持でパイになつたかもしれません。

しばらくすると、戸があいて、小人が出てきました。小人は、あたりを見まわしました。幾度も幾度もながめました。でも、ジャキーはおりません。小人は、そんなはずはないと思ひました。

「仕切りに、穴などありわしない。でもどこからか、逃げたんだな、中庭にいるかもしれない。もしそうだったら、そこには足跡があるだろう。それをつけて行つて、つかまえよう。」と、小人はぶんぶんになりました。

小人は、くつを手にとつて、それをはこうとしました。ああ、ところが、小人はまたぶんぶんになりました。うさぎの背中をはこうとしたからです。けれどもその時、ジャキーはとび出しました。子うさぎでは、これ以上早くは走れないという早さで、逃げ出したのです。お家の近くにくと、少し早さをゆるめました。そして間もなく歌いはじめました。

「おや、おや。」

おや、おや。

うさぎのパイのそばなんか、

シューズをぬぐんじやないよ。」

それからジャキーは、うさぎのお家の中にはいつて、お母さんうさぎに今までのお話をいたしました。お母さんはとても驚いて、すぐその日の午後に赤い毛糸の鼻當を編んで下さいました。けれど、もうその入用はなくなりまして。ジャキーは、鼻が冷たくなると、いつでもすぐに暖かなお家へ歸りましたから。(アナ・フアリス女史の作による)



## よき幼稚園 (一)

お茶の水女子大學  
附屬幼稚園主事

及川ふみ

昭和二十四年度の前半は、幼稚園の先生はいづれも認定講習のために、多くの時間を費した。教育原理、児童心理學、などの純理論より、或は保健體育、音楽、圖畫工作等の各専門的の教科、或は保育内容に至るまでそれぞれの學習に精進した。先生達のこの單位習得については、物心の兩面に多大の負擔であつたことは云うまでもない事であり、このため健康を損ねたものなども出來た位でもあつた。わけても幼児たちや、その家庭の人たちにも直接間接に迷惑をかけた事を相すまなくも考えるわけではあるが、しかし當局のねらいのすべてが先生たちの質的向上をめざして、幼児たちのための「よき幼稚園」をつくる意圖の外には何もないわけであつたのでらう。

教育學によつて説かれた保育原理、児童心理學によつて指摘された幼児の特殊性、保健衛生によつて示された幼児の健康等いづれも明日の幼稚園の實際に、理論的根據となつてこそはじめて健全な保育の實際であつて「よき幼稚園」がこれによつて生れ出る所以でもあるのではあるまいか。

この「よき幼稚園」についてしばらく考えて見ることにしたい。

幼児が元氣に、楽しんで來る幼稚園

これには幼児が健康であると云うことが第一にあげられるであらう。

幼児の健康について先生はいかになすべきかについて考えてみるのに……

設備環境は幼児の健康に重要な役割をもつてゐることは今更いふまでもないことであつて、適當の廣さをもつて、明るく日當りのよい保育室、ならびに運動場をもつてゐることは最も、のぞましい状態ではあるが、施設については一人一人の先生が直接に關係することが少いのでこれを論ずるのは別の機會にして、與えられた保育室、遊園についてという條件のもとで。

保育室は出来るだけ明るくすること

南向きの日當りのよい保育室は一番のぞむところであるがこんなよい部屋ばかりをもてない場合もあるだらうから、部

屋の色、その他のものなど明快な感じのあるものにする。明るい色は氣持の上で幼児の健康の上に役立つものである。

### 保育室の換氣

ことに冬季は保育室の換氣について、よりよき注意が大切である。大勢の子供の集合しているところであるために普通の状態よりも早く室内の空氣が汚されるためでもあり、又大人よりも成長盛りにある子供たちには、ことさらに新鮮な空氣が大切であるという事はいうまでもないことである。しかしこれが實際に充分留意されているか、どうかについて考え見たい。遊びや唱歌、お話や製作に夢中になつて、幼児を指導している熱心な先生に時々この換氣の點で忘れられてゐる時がないではなからうか。

### 保育室の清潔整頓

朝、始業の前、幼児の帰宅後の清掃は云うまでもない。遊びの後、食事の前後など汚され易い時には手まめに掃除することである。

### 運動場の清潔整頓・運動具の破損修理

運動場は幼児たちが活潑な活動をするところで汚れも一段と多いわけであるから、清掃も時時なされなくてはならない運動器具の破損の修理なども早めに見つけて、幼児たちの運動に危険を伴わない様に、ことに氣をつけることである。

保育室、運動場の清潔整頓、運動器具の修理などは直接に幼児の健康に大きな影響をもつていて、先生自らのなすべき部所であることを忘れてはならないと思われる。

### 朝の視診

掃き清められた保育室に、楽しそうに、ここにこして入つてくる幼児をみる朝の幼稚園は何とも云えない氣持である。先生はこの一人一人の子供について健康について朝の視診を忘れてはならない。元氣の點、顔色、眼の様子、など保健衛生の時間に教えられた。朝の視診の諸要點について、實際に行つてみることである。これによつて幼児の病氣の早期發見、傳染病の豫防等に役立つことが多い。ことに月曜日、及び休日の際日には殊更に丁寧に朝の視診が行われなくてはならない。日曜日或は休日には家族連れの遠足、或は來客などのため、過度の疲勞、睡眠不足、暴飲暴食などのことから病氣にかかされている場合があるためである。

### 子供達の健康のためのよい習慣

#### ○手洗い

登園直後の手洗い、用便の後、食事の前、作業の後、帰宅の前等と、幼児自身で手を洗う習慣をつけること。

これには幼児が手を洗うために便利な施設があることが先づ第一の條件である。保育室内に水栓のあることががのぞましい。流しの高さが幼児の身長に適して、楽な姿勢で充分に手を洗うことの出来る用意があれば最もよいことであつて、手を上手に洗うこと、手の内外の両面の汚れをよくとること、水道の水の出し方、手のふき方等、始めは手を洗うことについての指導が一つの仕事と考えられてよいのである。手をふく事についても、小さいハンカチでは水氣もよくとれない上

に、ぬれたハンカチをいつもさげていることになりそのまま砂場へなど出ると、たちまちハンカチも汚れてしまうので家庭から手拭をもつて来ておくことも一つの方法である。流しの近くに手拭掛を作つておくことなどもその一つである。

保育室には必ず水栓のあるわけでもない。水栓のあるなしによつて手を洗う場所や器についても實行の方法を各園に應じて考えることである。結局幼児に手洗いを實行させるのはそれだけの環境を作つておくことと云うことに歸着する。

○うがい

登園後、食後等うがいの習慣、これには年少の幼児たちには特に指導が必要である。上手にうがいの出来るまで幾日かかかつて指導することである。歯ブラシを食後に使用することは望むところであるが經濟的の面で實行出来ない時にはうがいを充分にさせることである。

○爪をきること

爪をのばしておくことは何よりも傳染病その他の病原となることである。爪の垢の中に多數のバイキンのあることをよく幼児たちに理解させておくことは大切な點で、實際の方法としては爪がのびているかどうかと云うことについて毎週、月曜日か又は別の何曜日かを定めて一齊に調べて見ることも爪を切るよい習慣の一つともなるのであろう。

○鼻汁をかむこと

鼻汁を出すことははづかしいことであることを教えて、部屋に備えつけてある紙で左右の鼻孔を片方一つづつおさえて

かむこと、はな紙をすてる場所などについてもよき習慣の一つまで指導すること。

○用便の時

用便の度数は幼児によつて多少の差はあるが、始めの間は大體時間を定めて用便のきまりよくする習慣をつけることである。

○偏食をさけること

幼稚園給食、或はお辨當によつて幼児の偏食は是正されるものである。

○厚着をさけること

ことに適度をすぎると汗を出してかえつて風邪を引くことになる。これ等は夏から秋、秋より冬に向う季節が適當の時期と思われる。

傳染病の豫防と處置

幼児のかかり易い傳染病に麻疹、水痘、百日咳、耳下腺炎とびひ、ジフテリアなどあるが、麻疹の他は誰もが經過しなくてもよい傳染病であるから、出来るだけこれ等の豫防にとめたい。不幸にして罹病したものがあつた時には、その幼児だけに止めたいため、その豫防に充分注意して傳染の憂がなくつてから登園することに保護者との間に約束しておくこと、尚それぞれの病氣について休園の日数などについて豫め家庭にそれを知しておくことである。併て入園前の病歴の調査表も幼稚園に備えておくべきである。とにかく幼稚園が傳染病の媒介所であるという汚名を受けないだけの用意

をすることである。

以上は健康について幼稚園、先生、幼児のすべき三つの立場について考えてみたのであるが、これらの實行の面では家庭の協力によらなくては、出来ないものであるから家庭の協力について考えて見ることにする。

### 健康について家庭の協力

今日の新しい保育では健康第一であること。何故に幼稚園殊に年少幼児については、特に健康保育に幼稚園が重點をおいているかの點については、保護者の理解と協力を求めるべきである。幼児期にあつては身体的發育の旺盛なる時期である爲にこの期において充分の發育をはかることが何よりも第一にする目標であつて、健康の爲のよき習慣、手洗い、うがい、爪を切ること、鼻汁をかむこと、用便、偏食、厚着等は幼稚園の數時間の生活よりもむしろ家庭における生活時間の多い間によりよき習慣がつけられるのであるからこの點について保護者の理解と協力を望むのである。

このためには新入園直後に於て保護者會或はPTAの集りによつて健康のための保育の重要性、健康のためのよき習慣への協力の説明をすると同時に、園醫など、その道の専門家の講演などによつて一層健康の重要な點についての強調をはかるべきことである。

### 身體検査表の通知

定期的の身體検査書の報告によつて、幼児の身長、體重などの有様を同年令のものの標準數との比較などによつて、こ

の年令期の身長、體重の發育の度に異常の有無をしり、これ等によつて病氣を未前に豫防することも出来るものである。又身長體重を月々に調査し、そのグラフを保育室にかかけて幼児が自身でこの表を見て、自分の成長の有様を見ることも一つの方法でもあろう。

### (0) (四五頁より)

日常生活に人手が要するが、時々自分でする。

好き嫌いがある。

一人で登園するが道草をする。

氣がむくと片附ける。

物は興味のある時だけ大事にする。

お金で買う興味がある。

### (1)

日常生活にいつも人手がいる。

用便を道にする。又度々しくじる。

いつも遊びつばなし。

物を忘れたり、失したりする事が多し。

### (2)

日常生活に人手がいる。

清潔にされることを嫌がる。

夜尿症がある。

送り迎えが必要。

危険な振舞が多い。



## 幼児のリズム指導

お茶の水女子  
大學 教授

戸 倉 ハ ル

これは、もうかなりの昔のことでありますが、或る年の春のことでした。私の學校の體育科を志願してきた、たくさんの女學生のなかにこんな生徒がいました。

いつの年でもそうでありますが、體育科志願者は、將來、よき體育の指導者となろうともえるような希望を抱いて、入學をきそう人たちだけに、誰も彼も、ひと目みただけで、普通の女學生たちとは、ちよつと比較にならない、すぐれた體格にめぐまれた人たちばかりであります。身長五尺五寸といえ、まず、それだけでも、日本の女性にはめずらしいのであります。その上に、よく發達した筋肉が恰好に調和し、がつしりと均整のとれた、まれにみる美しい體格でありました。さらにこの生徒は、いならぶ志願者のだれよりも、美貌のもちぬしでもあつたのです。すぐれた體格と、美しい容貌は長い教育者生活をふりかえつてみても、こんな女性を、あまり大勢思いません。

○ 考査は、委員の前での口答試問を終つて、いよいよ實地に

いろいろな動作をあたえて、いろいろな角度から彼女たちの適性を観るといふことになりました。

さて、その順番は、この志願者にもまわつてきました。ところが、ここで私たちは、まつたく意外な事實をみたのであります。そして、彼女に對するあのすばらしかつた、第一印象は、あやうくうちこわされてしまいそうになりました。と申しますのは、この女學生が、一たん腰かけをはなれて、直立の姿勢からそのからだを動的な場に置きかえさせられるとどうでしょう。その動作の何とぎこちなく、安定のないからだのこなし方など、およそ普通の女學生の、だれもが容易にやつてのける平凡な動作にさえ、この志願者は苦心をいたしました。あまりのことに、私はこの女學生をそばによんで、いろいろと彼女の經歷をたずねてみましたが、この女學生の語るところは、大要つぎのようなことでありました。

○ 小學校の六ヶ年は、別に他の子供たちとちがつたこともなかつたようでありますが、この生徒にとつて不幸だつたのは

その後、四年間の女學校生活であつたようであります。

この期間、この生徒の體育をうけもつた方は、始終男の先生であつて、體操といへば、徒手體操や器械體操がその全部だつたらしく、遂に一回も音楽に合せて行進するとか、ダンスを習うとか、律動的な指導をしてもらうとか、そういうことがなかつたのだとのであります。

これは少し極端な例であるかも知れませんが、私はこの話にも驚かされました。

その後、この生徒は、幸、入學を許されましたので、私が直接その指導にあたることになりました。このように相當のハンデキャップはありましたが、私はこの體格と、この聰明さが、短時間のうちに、必ずこれを克服してくれるばかりでなく、きつと、よい指導者になつてくれることも、大いに期待したのであります。

いよいよ四月、彼女も體育科の一年生となりました。何度も申しましたように、あの體その上學科の成績も、たちまち群を抜いていきました。しかしどうしたものか彼女のなみなみならぬ努力、精進も、私が指導を擔當した方面では、おいそれと、よい成績をみせてまいりませんでした。學友が何の雜作もなく學んでゆけることが、彼女にとつては、なかなかの苦勞でした。彼女は時々私に述懐して——私は他の方が苦心なさるといふ、外國語その他の學科は差程骨折ることはありませんが、先生の時間の勉強には、すいぶん苦勞いたします——とそういつていました。

しかし彼女は、さらに今一つ、實に強固な意志に恵まれていました。そして、その意志は、旺盛な研究熱と結びあつてきましたので、この越え難い難關を一步一步と、克服して行つたのであります。その努力は、まつたく涙ぐましい。學友はみんなその努力に、心からの敬意を拂うほどでありました。二年、三年いよいよ卒業の頃には、その精進の効果も大いにあわれて、もうすつかり一人前の體育指導者として誰の前に出ても、はずかしくないだけになつてきました。これはまつたくその研究と、努力のたまものであつて、到底常人の出來るところではなかつたと思われます。

さて、すいぶん長くなりましたが、私の出あつたこの一つの珍らしい經驗は、いろいろのことを私に語り、いろいろな問題を私になげかけ、いろいろなことを私に教えてくれたのです。

まず、その一つは、この女學生が、あんなすぐれた體をもち、あんなにゆたかな理性にめぐまれていながら、多少の困難はあるとしても、クラスの誰もが差程の努力を要しなかつたあの程度の身體の律動的な表現に、あんなにまで大きな努力をなせなければならなかつたという疑問であります。

たしかな根據の上にたつて、このお話をするような資料を持合せていませんが、それがその女學生の素質の問題でないことは、たしかであると思うのであります。卒業の頃には、立派な指導者となれたという一事が、充分にそれを證據だて

ると思ひます。それではどこにその原因をもとめるか、我が田に水を引くというそしりをまぬがれないかもしれません。私はどうしても過去の女學校、あるいは小學校、ないしは更にそれ以前の、こうした方面の教育ということに、關連をもつと思ふのであります。せめて彼女の女學校時代に、このリズム教育に對する考慮のある體育が行われていましたなら、こんなことはなかつただろうと思ひます、もちろん、これ以前の教育にそうした配慮がありましたなら、ますます結構なことでありまして、ことはもつともつと容易にはこんでいたでしょう。

○  
こう考へてくると、この一つの事實は、私にとつて、次のようなよい示唆を與えてくれるのであります。

まだ適確に、私たちはそれを捉へることは出来ませんが、リズム教育にも必ず最も効果のある時期、効果のあげ易い適期というものがあるのではないかと云ふことです、彼女の場合について考へましても、その芽の伸びようとする時期にこの教育について、適當な指導がななされていきましたら、もつと容易に行けたのではないか、つまり彼女の場合はその適期を、少しとりがしかけていてリズム教育に對する陶治性をよびかえす爲に、あんな努力が要求されたと結論できないのでしようか、幸に、彼女には常人の眞似の出来ない努力、精進がありました、これは萬人の希むがたいものでしよう、私たちの體育指導者にとつては、すべての人が容易に

學び、容易に到り得る、易行のコースを見出しておかなければなりません。そのためには、どうしても、比較的早期に、この教育をはじめることだと思ふのでありますが、このことについては、音楽に於ける早期指導、すなはち、リズムの教育の必要をさげられる所以であると思ひます。

○  
それでは、どんなにして、子供にリズムの指導をしたらいいのでしようか、まずよい音楽を、特にリズムミカルなものを選んできかせ、そして楽しい雰圍氣をつくり出すことが大切であります。そうすると子供は、その音楽によつて、ちつとしていられないで、何か動こうとする、ラヂオをきいている子供達がそのリズムに合せて、わけもなく手や足や身體を動かしてよろこんでいる姿を、皆様はよく經驗されることと思ひます。

そこで「おてゝつないて」「タやけ小やけ」「むすんでひらいて」「はとぼつぼ」「いもむしごころごころ」「かごめかごめ」「おにごつこ」「かくれんぼ」のような、子供の生活の中にある音楽を選び、この中から動きを見出していきなさいと思ひます。この中、例えば「タやけ小やけ」の場合でありますと、これをきかしている中に、子供が一小節に四つの動きをした時には、それをとつさにとらえて拍手を四つ加えさせてみます。又一小節に二つの動きをした時には、二つの拍手をさせてみます。

こゝに子供たちは、自分たちで器樂したことに、どんな喜



びを感じることでありましょう。私共は子供の音楽に對する動きを、鋭敏にとらえなければなりません。こうして音楽に興味を持たせると、もう子供たちはちつとしてはいません。手や足を動かして、更に何かを表現したくたつてまいります。

例えば、

夕やけ小やけで 日がくれて  
やまのおてらの かねがなる

おてゝつないで みなかえる

からすといつしよに かえりましょ。

それではこの場合、どこを子供がすぐ表現するでしよか、多分、最後の「からすといつしよにかえりましょ」の所が子供たちには一番やつてみたい所であり、又樂に表現の出来る所でありましょう。そこで、さあ、からすになつてみましょうと、云えば子供達は手を左右にあけて、からすになるでしよ。そこで指導者は、一曲を通してからすで歩かせてみます。又は一方に拍手させて、他方からすで歩かせてみる中に、自然に子供たちは曲のリズムが身についてくるのではないでしよか。一體私共は、子供がすぐ歌えると思うところにまちがいがありません。子供たちには、そう簡單にはうたえるものではありません。正しくうたうと云うことは、非常にむづかしいことです、ですから子供たちにとつてその曲の一番うたい易い所を見出して、そこを何回かうたわせます。例えば「からすといつしよにかえりましょ」の所だとしま

すと、こゝを何回もくりかえす中に、子供たちは正しくうたえると云う、安心と確信を持つようになります。それを中心としてだんだんと一曲を正しくうたえるように導いていきます。

○

こうして歌の指導をしてまいりますと、こんどは自然この題材の中で、何か表現したい所を子供が見つけることであります。この「夕やけ小やけ」の場合でありますならば、恐らく「おてゝつないでみなかえる」のところがやりたいところと想像されます。このところを樂器をそえたり、歌をくりかえしている、子供は二人づゝ手をつないで歩いたり、スキップしたり、兩手を上げて、からすになつた氣持で、楽しく遊ぶことであります。つまりは子供たちに教えるのではなくて、子供がすでに持つてゐるものを、たくみに引出していくところに、すべてのリズムの指導があると思つてあります。

何事に於いても第一歩が大切であります。その出發に於いて誤つたことが、それをとりもどすまでどれ程苦勞するかは、初めにあげました例を見にも明らかであります。そして總て物事にはその時期というものがあつて、時期をはづされた子供は不幸であります。その時期をはづさない様に、云いかえますと、その時期を素早くとらえて、指導していくことが、能率の問題をもふくめて、重要なことなのであります。(つゞく)

お  
は  
な  
し

羽根さんと

凧さんのお話

大熊米子

お正月のあるお天気のよい日の事でした。いつもは、お洋服ばかりの、ふみ子ちゃんも、まさ子ちゃんも、かづ子ちゃんも、今日は長いたんのおべべを着たり、おリボンをつけたり、可愛い日本人形の様です。三人は、おひるから、ずつと羽根をついて居ました。二人づつおむかいあい、

ひとりきな

ふたりきな

みてきな

よつてきな

とうたいながら追羽根をつくのです。めつたに着ないおべべの、長いもお邪魔になつたり、羽子板が重すぎたりして、大低四つぐらいつくと、どちらかゝ駄目になりました。

駄目になつた方が、待つて居た方とおかわりして、

ひとりきな

ふたりきな

みてきな

よつてきな

い一つきても

む一つかしい

な一んの

やくし

このまじや

と一よ

十までつづくと三人とも大喜びをします。でもなか／＼十まではつゞきませんでした。

何度も何度もくりかえして居るうちに、まさ子ちゃんのついたお羽根が、どうしたのか高くポーンと、とんで、お屋根のどいの中にポイと入つてしまいました。

「あら、どうしましょう」

「困つたわね」

三人で手に手に羽子板を出来るだけのばして、ピョン／＼とんでみましたが、到底といまでは届きません。

「しかたがないから、後でお母ちやまにお願ひしてとつて頂きましよう。それまで私のもつて居る新しいおはねでつきましよう」

まさ子ちやんが、又一つ新しいお羽根をおたもとから出しました。三人とも、といの中にとんで入つたお羽根が可愛そつうで氣になりましたけれど、きれいなお羽根で、ひとりきな

ふたりきな

とつき初めると、間もなく、先刻の可愛想なお羽根の事は忘れてしまいました。

そのうちに、少し重くなつて、眞赤なお太陽様が、ゆらゆらとゆれながら、まさ子ちやんのお家の屋根の陰に、さようなら／＼とお入りになるところでした。

「あら、もうお夕方よ」

「またあしたね」

「じゃあ さようなら」

三人は、明日のお約束をして歸つてゆきました。

「あ、待つてくだささい、まさ子さん…… ふみ子さん、和子さん、私を連れて行つて下ささい」

羽根さんは、出来るだけの大聲で呼んだのですが、すつかりといの中のお羽根さんの事を忘れた三人には、少しも聞えなかつたのです。可哀そうに……とう／＼といの中のお羽根はおいてきぼりになりました。

其晩の事です。もうすつかり眞暗になつてしまいました。

可哀想なあのお羽根は、といの中で、寒いのと淋しいのとで泣いて居ました。シツクンシツクンと泣いて居たら、どこからか、

「羽根さん／＼、ねえ、どうしたの？どうして泣いてるの？」とやさしく聲をかけた人があります。羽根さんは泣きながらそつと見まわしてみました。でも眞暗ですから何も見えません。だから又、シツクン／＼と泣いて居ました。

「ねえ、泣くのはおやめよ」今度は、先刻よりも少し大きな聲が、確に聞えました。

「だーれ？ 私に何か仰言つたのは？」

羽根さんは、少し元氣を出して、暗やみの中に聞いてみました。

「僕よ、僕はねえ、風の奴さんだよ。晝間一郎ちやんが上げて居た時松の木にひつ掛つてね、一生懸命とつて下さろうとしたんだけど駄目だつたの、そしたら一郎ちやんが『お父様およびして来よう』つてお家の中にとび込んでいらしたんだけど丁度お父様のところにお客様がいらつしやつたんで、それきり一郎ちやん忘れておしまいになつたの」

「まあ、それでも風さん泣かないの？」

羽根さんはびつくりして聞きました。風さんは笑つて、

「うん、僕泣きませんよ、強いんですもの」

「こわくはないの？」

「怖くなんかないよ、ほら、上を見てごらん……ね？ あんなにお星様が見て居て下さるでしよう？」

「だつて、私は怖くて、淋しくて、寒くて……ゆうべはね、まさ子ちゃんのお枕許で、羽子板さんに抱っこされてねんねしました。……それなのに今日は、こんなつめたい所で……ねられないわ、シツクン〜」羽根さんは又泣き出してしまいました。

「ねえ、もう僕が居るから泣くのはおよしよ、ね」  
「だつて……シツクン、だつて……シツクン……」

羽根さんは暫く悲しそうに泣いて居ましたが、  
「風さん、それじゃあもう泣くのはやめますから、私をおんぶしてとんで頂戴ね、お願いよ」でも風さんは云いました。

「うん、僕もさつきから、それが出来たらい〜と思つて居るけれど、僕のあんよにはグル〜糸が巻きついて、それが又松の枝にグル〜巻きついて居るから、どうにもならないんだよ、困つたなア〜」

シツクン〜、又羽根さんが泣き初めました。

「あつ 羽根さん、大丈夫〜、明日の朝迄お待ちなさい、ね、朝早く雀さんが来るから、そうしたら僕が頼んで上げるよ、ね、」羽根さんをくわえてチャンと下へ落して上げてよ』  
つてね、それでい〜でしよう？ だからもう今日はおやすみ僕も明日の朝一朗ちゃんがあみつけて下さるのを楽しみにして寝るよ」……

それでも暫くの間は、シツクン〜と泣いて居た聲も、やがて聞えなくなりました。風さんも、もうだまつて居ます。きつとねてしまつたんでしようね。お家の中も、もう何の音

も聞えませんが、何も彼もねんねしてしまつたのでしよう。

先刻から、だまつて、じつと風さんと羽根さんのお話を聞いていらしたお星様は、すつかり比の二人が可哀想におなりになりました。夜の間に二人をお庭におろしておいてやつたら……どんなに羽根さんも風さんも喜ぶだろう……それに子供達も明日の朝どんなに嬉しい聲を出すだろう、とお星様はお考えになりました。……でもどうやつておろしましょう……暫く考えていらしたお星様はやがて嬉しそうな顔をなさて、風さんをお呼びになりました。

「ねえ、風さん、あそこに可哀想な風と羽根が居るんですよ二人ともお嬢ちゃんや坊ちゃんに忘れられてしまつたんですもう夜もおそいし、お氣毒ですけれど、あの二人をお庭におろしてやつて下さいな」

すると風さんは、

「はい〜お星様お易い御用です。一吹きさつとやりましよう」風さんは早速ビュツと吹きはじめました。寒い〜冬の風です。お星様も思はず寒そうにチラ〜とまばたきをなさいました。其の時、小さな羽根さんのおからだは、ふわ〜と持上げられてひら〜〜とお庭にとんでおりました羽根さんは、寒いお風にお目々をさましたトタンで、あつと云う間の事でした。羽根さんは、自分がどこに居るかやつと判ると、餘り思いがけなかつたので、うれしくて〜大きな聲を上げました。

「風さん、風さん、私おりられたのよ、風さんがおろして下

さつたの」

羽根さんの可愛いお聲がちぎれちぎれに聞えてくるので、  
爪さんはお返事をしようと思つても、それどころではありま  
せん。糸でしつかり松の木に巻きついている爪さんは、ビュ  
ーッとお風が吹く度に、パーッと飛上りかけるのですけれど  
糸に引張られて、やつぱりとべません、ベサリと又落ちま  
す。何度も何度も、それをくり返しましたが、其の中にブツ  
ンと糸が切れました。糸の切れた爪さんは、サーッとお  
風につて舞い上つてから、ひら／＼と羽根さんのすく  
傍におりて來ました。

「爪さんッ」

「あゝ羽根さんもそこ？ よかつたねエ、風さんにお禮を云  
おう」

二人はお聲を揃えて、

「風さん／＼有難う、本當にどうも有難うございました」  
と云いました。風さんは、もう遠くの方を吹き抜けて行き  
ながら、

「どういたしましたして、お星様が私にお頼みになつたんですよ  
じやア おやすみ」

二人は今度は、高い／＼お空で、ニコ／＼して見ていらつ  
しやるお星様を見上げながら、

「お星様ア、本當に／＼どうも有難うございましたア」と云  
いました。お星様は、

「あゝよかつたね／＼又明日もよいお天気だから、皆で仲好

くお遊びなさいね、じやア静におやすみ」

と仰言いました。二人は今度こそ、本當に安心して眠りま  
した。明日の朝、まさ子ちゃんや一郎ちゃんが見つけたら、  
どんなに大喜びをするでしょう。

(四七頁より)

に對して次のような通達があつた。

このことについて、本日、天野文部大臣から次のような談  
話がありましたので、「文化の日」その他國民の祝日にあつ  
ては、談話の趣旨をお含みの上、行事を行われるよう参考  
のため、お知らせいたします。

貴機關に於いては、それぞれの學校……に對しこの趣旨を  
周知徹底されるようお願いいたします。(以下略)

談話——「文化の日」その他國民の祝日は、よりよき社  
會、より豊かな生活を築きあげるために、國民こそぞつて祝  
い感謝し、又は記念する日として、われわれ國民がみずから定  
めた日であります。したがつて各學校においては、學生生徒  
兒童に對しこれらの祝日の意義を徹底させ、進んで國家及び  
社會の形成者としての自覺を深くさせることはきわめて必要  
なことと思われれます。このために各學校では、訓話、講演會  
學藝會、展覽會、運動會等それぞれ特色ある様々な行事を催  
されることと思ひますが、その際、國旗を掲揚し、國歌を  
齊唱することもまた望ましいことと考へます。又各官廳、  
各家庭においてもぜひともこれらの祝日には國旗を掲揚し、  
祝意をしめされるようおすすめます。



## 幼児生活の記録の 記入についての研究

### お茶の水女子大學幼稚園

文部省に於ても、幼児指導要録研究會が設けられ、既に試案が本誌九月號にも掲載されておりあります。その他にも幼児指導要領の試案成案は今までもいろいろありましよう。

指導要録を正しく記入するということは、吾々のたづさわつてゐる保育の成果について、改めて考えてみると共に、其の反省をし、又幼児時代特有の心身の發達狀況、幼児の性格興味・能力を知る意味に於て、大切なこと、是非ともしなければならぬ事だと思ひます。

さて、それは定められた項目の一つ一つについて、一人々々の子供について考へながら、一年の終りに記入するわけですが、同一項目でも、記入する人により又其の時の氣持により判定の標準の違ふことがあり得ます。其の上、多くの子供について、記入している間に、單に頭の中にだけおいた基準だけですと、一番先と、あととでは幾らかのくろいを出さないでもありません。それで、それについてのしつかりした判定基準の着目點をきめておく必要を感じます。

勿論文部省のものが公布されることになれば、その解説というものが示されることゝ思ひますが、その前に、研究としてお茶の水女子大學主催の認定講習「兒童心理」の時間に、牛島教授を中心に、講習生一同が數班に分れ、假に東京都公立幼稚園試案の「幼児の生活の記録」の一部分

- 友達とよく遊ぶ。
  - 他人を認め自己を主張する。
  - 自分より小さい者をいたわる。
  - 責任を重んずる。
  - 禮儀が正しい。
  - きまりを理解して守る。
  - 安定感がある。
  - 自發性がさかんである。
  - 日常の習慣がよい。
- の九項目につき、それ／＼考究討論し、その結果を逐一牛島先生に細かく御批評頂きました。皆いろいろ苦心しました

が、九項目の中でも、讀んだだけでは一寸手のつけにくい、「安定感がある」という項では、この抽象的な事柄の急所をとらえ、其の表現もよくできて居ると、牛島先生からおほめを頂いて得意になつたこともありました。

次に一つ一つについてあげてゆきますが、先づそれ／＼の項目について、どういう内容からみてゆくかを、「要素」としてあげ、次にその出てくる『場面』を考え、それを測るのに第一に普通の場合を零とし、兩端を「+」「-」其の中間を「+」「-」としました。

こゝで一寸「要素」「場面」ということについてあげてみますと、

「要素」とは、幼児の生活の中で、どの子供でも経験する共通した根本的なものをいゝます。

「場面」とは、幼児の行動のよく表われている場面をいうのですが、それを二つの方面から考えました。一つは、普通よく起る場合、一つは普通の状態では本来の性質がつかぬ、何か起つた場合に、生來の態度が表われるので、そういう危機的な場合を考えてみました。

### 項目第一 友達とよく遊ぶ

〔要素〕

他人に對する關心

教師、友人、他人を好み、又、教師、友人、他人から好かれる。

交際の範圍と親切さ

人なつこさ

〔場面〕

遊び、集團遊び

他のグループと接觸する場合

未知の人（新入生、同年輩の者、年上年下の子供）

〔尺度〕

(+2)

他の子供にきらわれている子供、よく知らない子供、ぼんやりとしていて皆に相手にされない子供などの、どんな人にも親切でよく一緒に遊ぶ。

又人に好かれている。

人のよいところを認め、新入生と誰れよりも早く仲良くなり、誰とでも協力し、人のめんどうをみる。

(+1)

殆んどの人とよく遊び、多くの人に親切であるが、好きな人はかまわない。大抵の人を好むが全部ではない。

(0)

友達の数是比较的多い。自分の好まない仲間や個人とは遊ばない事がある。

自分の仲間からは好かれる。大體自分の仲間だけに親切である。

(-1)

少數の友達とは遊ぶが、そんなに親しくは遊ばない。新しい友達を作つたり、他の組に仲間入りする事は殆ど

ない。多くの者から嫌われるか、或いは無視される。  
自分の都合のよい時だけは親切である。

(2)

グループに参加する事が殆どない。

いつも人から無視されている。

無口で表情がなく、身近の者の他、友達の親愛に對して無反應である。

## 項目第二 他人をみとめ自己を主張する

〔要素〕

他人の立場を尊重し、自己を發表する。

自己の意見を固執しないで、他と協力する。

不正に對して正しい主張をする。

他人の缺點や、過失をとがめない。

自己の缺點や過失を注意された場合は、素直に聞き入れる。

〔場面〕

自由な遊び

集團的な遊び

發表遊び

一つの事を皆が一緒にする場合

争いが起つた場合

自己の要求が通らなかつた場合

友達が過失した場合

注意をうけた場合

〔尺度〕

(+2)

人の意見を受け入れ、しかも進んで自己の意見や要求をはつきり話す。

自分勝手をしない。友達と仲よくする。

よいこと、悪いことを正しく判断する。

人のあやまちを笑つたりとがめたりしない。

自分のあやまちを注意された場合、素直にきき入れる。

(+1)

大體人の意見をきき入れる。自己の意見や要求も話す。

殆ど自分勝手をしない。友達とも仲よく出来る。

善い悪いの判断も大體出来る。

あやまればゆるす。大抵の注意はきき入れる。

(0)

自己の意見や要求を固執するが、人の意見はその割に聞かない。

自分勝手なこともあるが、すぐ仲直りが出来る。

なか／＼分らない點が多いが、よく云いきかせれば理解する。

(-1)

自分の好きな人に對しては意見も聞き、仲良くも出来るが、自分勝手に流れ易い。

あやまちも人によつては許す。

注意も時には聞く事が出来る。



(-2)

人の意見を全然聞かない、自己の意見や要求だけを云い張る。

友達と仲良く出来ない。

よい悪いの判断が出来ない。

人のあやまちをとがめる。

注意されても聞き入れない。

自分の意見を持たず、人の云いなりになる。

### 項目第三 自分より小さいものをいたわる

〔要素〕

小さい子に對する關心

小さい子に對していたわり好かれること。

親切・人なつこさ。

言語的・態度的表現能力。

劣等感を持つていない

〔場面〕

遊び・共同作業・家庭に於て。

他のグループ・年長組・年少組との接觸

未知の人(新入園児等)

〔尺度〕

(+2)

自分の利害を考えないで、進んで小さい子を親切にいたわつてあげられる。

遊具等進んで先に貸してあげる。

誰彼の區別なく、遊びの仲間に入れてあげる。

おせつかいでなく、お仕事を進んで終りまでみてあげる。

新しい子供もすぐ仲良くしてあげる。

小さい子の要求に對しては、進んで満足させるよう努力する。

いたすらしても怒らず許してあげる。

家庭においても同様

(+1)

殆んどの子供に對しては親切であるが特に嫌な子に對しては無關心である。

小さい子に何か頼まれるとして上げる。

ままごとには何時も入れるが、かけっこには早い子、よくやれる子だけを入れる等。

新らしい子供は少し觀察してから仲良くする。

小さい者の要求を先生に知らせる。

(0)

自分のその時の感情によつて、いたわる時もあれば、いたわらない時もある。

積極的にいたわることをしない。

遊びの時も作業の時も、其の時の感情によつて、仲間に入れたり入れなかつたりする。

新らしい子に興味はもつが、進んで遊ぼうとしない。

(-1)

殆んど無關心で、時によりいじわるをする。

嫌いな子とは一緒に遊ばず、感情のいら立っている時は邪魔にする。

特に好きな子供とは一緒に作業したり、遊んだりする事もある。

幼稚園では小さい子をいたわるが、家庭に於ては暴君であり弟・妹をいじめる。

(12)

むやみにいじわるをしたり、困らせたりして自己満足をしている。

家庭に於ても弟妹をいじめていばつてゐる。

砂場や積木でお友達で作つた色々なものをわざとこわして得意になる。

小さい子が側にくると、邪魔にして遊びにも入れない。

與えられた作業もせず他人の邪魔をする。

家庭に於ては、弟妹の面倒をみず、いじめて面白がる。

#### 項目第四 責任を重んずる

〔要素〕

任務に對する自覺・忠實さ・積極性。

過失に對する責任感

責任轉嫁をしない。

〔場面〕

約束、御手傳い・共同作業

仕事が困難になつた場合。

いやな仕事の場合。

失敗した場合。

先生の見てゐる時、しない時。

他に興味が起つた場合。

〔尺度〕

(+2)

言われない仕事、與えられた仕事を進んで最後まできちんとする。

先生の見てゐる見ていないに拘らずする。

他に興味が生じた場合、我慢して與えられた仕事をつづける。

上手に出来ても出来なくても、ありのままを報告する。

あやまちを認め、人のせいにならない。

(+1)

云われないことでも時にはすることがある。

與えられた仕事はよくし、困難の場合でもすぐには放棄しない。

他に興味が生じた場合、その方に移り易い。

(0)

與えられた仕事は大體果す。

先生がみてゐる方が、與えられた仕事をよくする。

仕事が困難になつた場合、他に興味が生じた場合、放棄する。

あやまちを一應は人のせいにする。

(-1)

困難な事、いやなことはさけたがる。  
先生が見ていない時は、全然しない。

人に云われたことは、興味があれば聞きのがす。  
何かといえは、云譯ばかりする。

(2)

與えられた仕事でも無視する。

物事をするのに、いつも人をあてにしている。

失敗を他人のせいにする。

### 項目第五 禮儀が正しい

〔要素〕

言語・動作・容姿

親切である事(誠意・思いやり)

他人の人格を尊重する。(如何なる地位・身分・年齢・

職業・又は外見上の形式的な如何なるもの・容貌・風采

態度其の他にとらわれずに。人間である事・自己と全く

同様の・自然より發生した一個の魂であることに驚異と

敬虔の念を持つこと・そして他人の能力、才能、體驗等

を率直に認め、之を尊敬する)

〔場面〕

遊び(話し合い)食事・お仕事・ご挨拶。

先生や年長者に對する態度。

お友達及び年少者に對する態度。

馴れ親しんだ場合。

興奮した場合。

優越の地位におかれた場合。  
劣等の地位におかれた場合。

かけて他人に行動する場合。

共同で行動する場合。

〔尺度〕

(2)

先生の前でもお家でも、言語動作が幼児らしく(朗らか

で無邪氣)挨拶も忘れないし、容姿が亂れた場合直す事

も試みる。初對面の人にも不快を與えない。

誰にでも思いやり深く親切である。

召使や物賣りも馬鹿にしない。

お友達にかりたものは、大切にしてみちんと返す。

ブランコの順番などちゃんと守る。

不具な人でもいたわる。

お友達製作物等を大切に作る。

(1)

大體の場合、言語動作が幼児らしく。

①素直である。

②挨拶も消極的ながら出来る。

③容姿が亂れた時、直ちに直すことを要求してくる。

人の立場を理解する事が出来る。

遊び道具等皆で分けて使う。

(0)

大體に於て言語動作に缺點はないが、時によりむらがあ

る。

自分に氣に入つた人には親切であるが、氣に入らぬ人には不親切である。

他人のものは大切にする。

他人が、氣持わるがるような事をしない。

(1)

言語動作がいくら粗暴である。

① 又は自分の感情を行動にはつきり表現できない。

② 時として他人を困らせる。

③ 容姿が亂れていても氣にしない。

他人の不幸に思いやりがなく、無關心である。

遊び道具等自分のほしいものは、他人をおしのけても取る。

自分の製作物は大切に使うが、他人のものはどうなつてもかまわない。

人によつて遊んだり、遊ばなかつたり、大切にしたり、いじわるをしたりする。

(2)

言語動作が粗暴である。

自分さえよければ、他人の事はかまわない。

わざ／＼他人を困らせる様なことをして喜ぶ。

優位の時は横暴でいばるが、劣等の地位の時は卑屈である。

他人の大切にしているものをけなしたり、こわしたりする。

る。

皆が静かにお話やお仕事をしている時、わざと大聲を出したり、大きな音を立てたりする。

「よい場所」等、他人をおしのけても無茶苦茶にとる。

先生やお母様の云うなりにおじぎばかりしている。

先生やお母様の前でだけ「よい子」で、蔭で人をいじめたりする。

### 項目第六 きままりを理解して守る

〔要素〕

きままり（遊び方のきままり。手洗の時。食事のときのきままり。友達との約束。特に約束したきままり。）の必要性がわかること。

きままりを守れること

〔場面〕

幼稚園生活……自由遊び、集團行動。

家庭生活・交通・公衆衛生。

きままりどおりにすると、面白くなかつたり、めんどうなつたりする場合。何かに夢中になつている場合。

他人からさそわれたり、おだてられたりした場合。

〔尺度〕

(+2)

きままりの必要はよく分つて、すゝんでこれを守ろうとする。

きままりの爲には、自分の興味をおさえることが出来る。

(+1)

きまりの必要がわかつて、すなおにこれを守ろうとする夢中になつたり、一人になつたりすると守れないことがある。

(0)

大體きまりを守る。自分に都合が悪いと、きまりを守らない事がある。

(-1)

きまりを守らない事が多く、守つてもいや／＼従つてい

る。じきに刺激に負けて、きまりを破る。

(-2)

きまりのある事がよく分らないで、殆どきまりを守れない。

### 項目第七 安定感がある

〔要素〕

どのお友達とも仲よく遊び、皆に慕われているという信頼感を持つている。

どのお友達も、自分と一語にすることを喜んでいようと、要求されてほめる感じ。

先生やお友達にほめられて、良い子であると思ひ、眞價を認められている感じ。

何でも出来ると思つてゐる、自信ある感じ。

にこ／＼と氣嫌よく幸福そうである(安堵感を持つてゐる)

〔場面〕

登園の時、自由遊び、遊戯、お集りの時、共同製作、生活発表、幼稚園の行き歸り。

〔尺度〕

(+2)

正義感を持つていて、弱い子供からたよられ、いじめられた時や困つた時にたのまれると、それに應じて相手を止めさせてくれる。

繪や仕事にすぐれている爲に、皆の信頼を集め、常に指導的地位を持つてゐる。

新しい仕事や、始めての経験に遇つても憶せず、積極的にやり、一人でもお歌やお話もやる。

良い意見を出し、多勢の中で仲好く相談をすゝめてゆく。云いつけ口をしなす。

お話しを聞く時、靜かに聞き、良く理解する。

どのお友達も近くに坐りたがり、遊びたがる。

こちらからけんかを仕掛た事が無い、仕掛てもけんかにならない。

(+1)

皆に好まれて誰とでも遊ぶが、何となく個人的である。意見も認められるし、繪や歌も相當出来るし、自分が認められていると云う楽しい感じを持つてゐるが、人に及

出す影響力はない。

皆に好かれてはいるし、人氣もあるが主役にはならない。

生活發表が出来る。

始めての事も安易にやる事が出来る。

出来なくても大して騒がない。

(0)

皆から特に選ばれて遊んだりする事はないが、遊び仲間に入つてもきらわれる事はない。

全體からはあまり問題にされてはいないけれど、特定の御友達(近所の人・御歸り仲間)からはしたわれている。

お得意のものをする時には、大いに自信を持つてするがそうでない時はしりごみをして、出来ることだけをやりたがる。

始めての経験は恐る／＼手を出す、一度失敗すると二度と仕様としないが、成功すると得意になつて又やりたがる。

(1)

特定のお友達とは遊んでいるが、お休みしても誰もが気が付かない存在。

先生と餘りお話しをしない。先生や大人を何となく恐れている。

前にしたことはするが、新しい事は容易にしない。出来ないいと泣き出すか止めてしまう。

(2)

大抵一人で居て誰も遊ばない。遊びがはつきりしてない。さそわれても皆についてゆかれない。

繪畫やお話の様な、どの幼児も興味を持つものに興味がうすく、すぐいたずらをする。

新しい事や始めての事には、手をつけないか、全然目

茶苦茶にするか、泣き出す。

話や場の空氣を理解出来ない。

### 項目第八 自發性がさかんである

〔要素〕

興味。

依頼心がない

他から、強いられる事なく、自分でしようとする力。

發表力・創意力・實行力・臨機性。

〔場面〕

自由あそび・歌・リズム・おはなし・製作・繪畫・觀察

ごっこ遊び・劇あそび・集團あそび。

自分の考えを他人の前で發表する場合。

集團の中の誰かに仕事を要求した場合。

一つの仕事や遊びにあきた場合。

物事を新しく始める場合。

必要に迫られた場合。

〔尺度〕

(+) (2)

何時、どんな場所でも物事に興味をもつて進んで自分からしようとする。

他人に依頼せず、自分で考えて事をしようとする。

(+1)

餘り他人に頼らないで、大抵のことは自分で考えてしようとする。

(0)

自分から進んでする事もあるが、誘われてする時もある

(-1)

助けられないと仕事をしない。

家庭ではするか、幼稚園ではしない。

(-2)

總ての事に興味を持たず、何もしようとしなす。

### 項自第九 日常の習慣がよい

#### 〔要素〕

衛生に注意する。

規則正しい生活をする。

勤勞を喜ぶ。

物を大切にす。

#### 〔場面〕

日常生活（就床・睡眠・起床・洗面・用便の場合・食事  
間食の場合・遊ぶ時片附ける時・自分の玩具・所持品・  
クレヨン等用品を用いる時・公共の遊具、玩具、備品を  
使う時・お小使を使う時・道路を歩く時・朝登園の身仕

度をする場合）

#### 〔尺度〕

(+2)

就寝・起床・食事・用便は大體きまつた時間に一人で出来る。

洗面・朝晩登園等の身支度がいつも自分で出来る。

何んでも喜んでたべる。箸で上手に、大體きまつた量を

たべる。

はななみ・手洗い・用便が一人で清潔に出来る。

身體・衣服・所持品等いつも清潔にしている。

公共のものも、自分のものも大切に取扱ひむだづかいし

ない。

お手傳を進んで喜んでする。

はつきり返事が出来る。

一人で登園出来、右側通行、信號を守り道草をしない。

何時も遊びの後片附が出来る。

(+1)

日常生活が大體自分で出来るが、時々忘れる。

一人で登園する。

云われると後片附をする。

大體清潔・自分のものは大事にする。

お手傳する。

お金や物のむだづかきを餘りしない。

記 録

第一回全國國公立

幼稚園長會協議會

昭和二十五年十一月十九日午前十時より、標題の協議會が京都市明倫小學校講堂において開催せられた。設立趣旨は規約書によれば「全國國公立幼稚園相互の連絡提携を圖り、幼稚園教育に關する重要問題を研究協議し、その發展と充實を期する事を目的とし」(第二條)その事業とするところは、

「幼兒教育の昂揚に關する施策、幼稚園増設の促進、幼兒教育制度の刷新、その他必要とみとめる事業」となつてをり、(第三條)構成メンバーは全國國公立幼稚園の園長並びに主事とする(第四條)

會の次第は次の如し

開會式——奏樂、挨拶、祝詞

議 事——報告、會則審議、役員選出

選出役員は、會長 大阪桃園幼稚園園長岡田しげの、副會長 京

都明倫幼稚園長 柳澤靜子、同 東京南山幼稚園長 小林操

レクリエーション

協 議

1 市區町村立幼稚園の教員給の全額を都道府縣支辯にせられたい。

2 幼兒教育機關の設立を義務制にせられたい。

3 都道府縣國立大學に幼稚園教諭養成コースを設けられたい

4 國立幼稚園(師範學校附屬幼稚園)の整備充實をはかること

懇 談——各地方情報交換

閉會式

なほ出席者氏名は以下の如くである。——(青森)佐々順威(群

馬)志村二郎(千葉)宮内孝、石井恒治、吉原實、吉岡喜四郎(東

京)及川ふみ、片桐國憲、越智美智子、鎌田しん、松石治子、立子

山トク、板橋いよ(新潟)高井タケ、長谷川増吉、土田カホル(長

野)矢口亭八(静岡)栗田國彦(愛知)渡邊ナホ、山中たみ、淺野

壽美子、伊藤文夫、増田義一、柴田録一、後藤博英、林いま、鈴木

義孝、中川しげ、堀田やゑ、山本奉(三重)鈴木三郎、福井きみ、

八嶋行繁、吉藤ついで、杉井ヨネ(滋賀)有馬豊子、三村智一、北出

三郎、蒲生憲武、饗庭英三、奥居校友、黒川清子、森信、根岸ヤエ

子、堀田百合、南出信一、坂口完二、福谷恒太郎、居場五郎、中川

正造、高原宇乃、桂飛勝(京都)魚住實、中西ヒサノ、今井美代、

志賀廣吉、相原榮次郎、三久保マチ、林都美子、和住昭子、小西貞

増田春子、柳澤靜子、中條慶四郎、勝見たづ、平井乙磨、杉浦照榮、

平井善次、小澤吉子、杉浦三千雄、土屋俊二、尾崎貞子、安藤秋成、

大槻喜一、堀江道藏、山本利一、佐古田一夫、大垣憲太郎、貫名武

夫(大阪)阿部安三、松尾マスヨ、富田忠雄、菅沼貞子、長野四重、

山田アキ、岡田しげの、松宮よしえ、山田縫、岡本宗次、芝原政子

入矢好子、廣岡キミエ、津村節津子、福田房子、村上千代、八田富

夫、田中浪華、關田春枝、福島恒子、岡ミツ、岩尾峻子、中村道子、

木原忠雄、岡田ミサ江、堀尾靜、東崎キヨ、角谷政雄、毛利貞子、

吉田秀、田中範四郎、河井千恵子、神田元治、石橋信太郎、向井ッ



ルエ、本莊彦三郎、高田二郎、松下一枝、山田房子、笠松カツ、藤井千代、大向榮一、片岡恭子、松村源之助、齋藤梅子、土川素道、久住武雄、濱貞子、日吉マツ、堀内楠義、辻千代子、西村花代、新田志宇、引田英、石井君子、入間綾子、遠藤孝子、岡本シカ、古林橋子（兵庫）長井八蔵、小幡重樹、小澤ツネ、和田よね、渡邊春野、中谷久子、新井京、樋口重乃、長尾きよの、梅火益代、日野菫一、谷川ひさえ、首藤とみえ、野喜和可子、内匠ちあ、木間きみ、渡邊幸子、原田藤太郎、中島達、竹室のぶ、福島正夫、松原直覺、島關シン、山崎一郎、藤原糸江、木下みつ、植木秀、平松久雄（奈良）小川正通、島田よし子、中川芳江、藤田利則、南清治、三長きみ江、仲井彦太郎、木村春彌、牧浦芳子、山本豊子、柴田梅、中谷サクエ、小林若子、樋口正子、兒玉寛、丸山壽郎、中山魁三郎、江川重次、阪口正一、土生信一、小佐田治、松岡英之助、川端義晴、（山口）太田モモヨ（徳島）鶴田常吉、井川徳太郎、竹亀守、川人道夫、小延從二、香田稚子、阪東和子、福永喜代子、前川美代子、來代正之（福岡）遠藤艶（佐賀）薄登美世（長崎）大場久子、松崎久美子、大場三保子

## 官廳公示連絡事項

### 昭和二十六年年度文部省

#### 科學研究獎勵交付金について

右について昭和二十五年十月二十五日文部省から各大學都道府縣教育委員會、都道府縣知事に對して昭和二十六年年度の

獎勵金を受ける者の申請を通知したがその要領は左のようである。なお來年度は幼稚園關係者もふるつて申請してもらいたい。

#### 一、名稱 科學研究助成補助金

#### 二、申請できる者（關係部分のみ）

高等學校、中學校、小學校、幼稚園、育ろう學校、養護學校等の教員で研究を行つてゐる人

#### 三、申請方法 一人一課題以上でも差支なく、この場合は

一課題ごとに申請書類を作製すること

申請する課題の内容については、制限がなす。

多人數の組織的な共同研究でもよい。

#### 四、申請の期限 昭和二十六年一月三十一日

#### 五、提出先 文部省大學學術局研究助成課科學研究助成費

係

#### 六、提出書類 1、科學研究助成補助金交付申請書

2、科學研究助成補助金研究計畫概要書

3、通知用はがき

なお詳細は都道府縣教育委員會、大學等に問合せると  
す。

#### 學校における「文化の日」その

#### 他國民の祝日の行事について

昭和二十五年十月十七日付文總審第一六七號で文部大臣官房總務課長から、都道府縣教育委員會、同知事等（三五頁へ）

# 會から

○新年を迎えて、誌友皆さんの健康を祝します。

○本誌も第五十巻に入りました。巻頭の日本幼稚園協會御挨拶にある如く、長い歴史を數えと共に、現下我國保育界に對する本誌の責務の自覺を以て、一層の努力をすゝめてゆきたいと思ひます。

○吉田氏の論文は、幼児期教育の中心的重要事項たる性格の教育について、教育學的論考をすゝめておられ、最も精讀せらるべきものであります。新春初頭の讀みもの。

○波多野氏、多田氏、倉橋主幹の『保育鼎談』は、波多野氏のアメリカ幼稚園所見が中心になつて、なだらかな會談の間に、種々の保育問題が語られています。幼稚園と小学校との關係、保育の主目標の一つとしての『安全感』の問題その他、多くの意を留めて傾聴すべきものがあります。

○及川氏及び戸倉氏の説かれるところ、いづれも保育の實際について、實感を以て懇切に語つていられます。皆さんの味讀せられることを信じます。續載されます。

○お茶の水大學幼稚園の研究になる、幼児生活の記録の記載についての考察は、この新しい問題について、極めて有益な參考となるも

のであります。

○大熊氏の新作童話は、若い、いき〜とした感觸を以て、必ず幼児を喜ばせると思ひます。お正月の保育室を明るくするでしよう。

○松原氏のアメリカ童話の實例研究は、單にアメリカ童話というよりも、童話の新傾向について毎號貴重なものを教えられます。

○誌面の都合上、平井氏の『健康保育』と倉橋主幹の『子供讃歌』とを今月に限り休載。

## 「幼児の教育」編集

編集主任 倉橋惣三  
協力委員 牛島義友  
及川ふみ  
齋藤文雄  
多田鐵雄

波多野完治  
山下俊郎  
(五十音順)

編集委員 西山浪太郎

## 日本幼稚園協會

幼児の教育 第卅卷 第一號

定價 金參〇圓

昭和二十六年 一月十五日印刷

昭和二十六年 一月二十日發行

東京都中野區千光前町一〇番地

編集兼 發行所 倉橋惣三

東京都文京區柳町二二番地

印刷所 杉山龜吉

東京都文京區柳町二二番地

印刷所 第一印刷株式會社

東京都文京區大塚町三十五

お茶の水女子大學附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

東京都千代田區神田保町二ノ四

發賣所 株式會社 フレーベル館

電話九段(33) 冥七・五七二番

振替 東京一九六四〇番

○本誌御購讀について注文申込その他は凡て發賣所フレーベル館宛に願います

# 幼稚園教育に必ず要る圖書並びにテスト

田中寛一・柳原清・辰見敏夫共著

## 點數式田中個別知能検査法

A5版二一〇頁・圖版多數入・價二五〇圓

### 本検査法の特徴

- 検査用具は特別のものを使わないようにしてある。それでも必要なものはこの本の中に一切納めてある。
- 採點法がこれまでのように合格でなければ不合格とする方法を改めて、出来ばえによつて點數を與えるので個人差を詳しく調べる事が出来る。
- 検査の手續が簡單であるから、特別の經驗者でなくても、素人でもたやすく實施できる。
- 適用年齢は四才―十六才にわたつてゐるから幼稚園、小学生および中学生に使用できる。

東京教育大學教育学研究室編集

## 教育大學講座〔全卅六卷〕第九卷

# 幼稚園教育

A5版上製・特別紙使用・美裝函入價三五〇圓

取り殘された幼稚園教育についての新時代に適わしい理論の探究は本書により初めて成就された。保育實踐上の權威ある指導書。

幼稚園教育論 奈良女子大學教授 小川正通  
 幼稚園のカリキュラム 東京教育大學教授 梅根悟  
 幼稚園の運営 山梨大學助教授 田中熊太郎  
 遊戯と構成活動 東京教育大學教官 石上秀雄

東京教育大學  
 文京區  
 小石川局

金子書房

東京  
 荏菈  
 103376

お茶の水女子大 戸倉ハル・東京高師 小林つや江共著

## 保育資料 うたとあそび

四六倍判一八四頁  
 定價 三二〇圓  
 書留送料 六五圓

著者多年の經驗と蘊蓄を傾倒し、幼稚園及小學校低學年用の教材の粹八十曲をあつめ、これを春夏秋冬の四に分類配當し、夫々の曲についての解説とこれに獨創的なふりつけを詳説したもので絶好の保育資料として各地の講習會等に於て讀辭を頂いて、います。  
 表紙七色刷、扉等三色刷、羊麗製本、最寄の書店又は本社に御注文下さい。

東京教育大學教官 中島 海著

## 遊戯とリレーレース

B6判二四二頁  
 定價 二〇〇圓  
 送料 三五圓

●多年の蘊蓄を傾倒してものした、遊戯に關する理論及び實際指導の權威書。運動會參考資料として好適。

東京教育大學教官 中島 海著

## 鬼遊びとかけっこ

B6判三三七頁  
 定價 二五〇圓  
 送料 三五圓

●遊戯研究及實地指導に不可缺の好著。あらゆる種類の鬼遊びとかけっこを網羅蒐集したもの、運動會用として好適。

東京教育大學體育部教官編

## 體育大辭典

A5判一〇〇四頁  
 一萬二千項目収録  
 定價 一三五〇圓

(第二版出來發賣中)

東京都文京區大塚仲町二

發行所

株式會社 不味堂書店

荏菈 東京六八七三九番

観 察 繪 本

# キンダーブック

## KINDER-BOOK

キンダーブックのフレーベル、フレーベルのキンダーブック——この繪本は餘りにも有名です。發刊以來既に通巻 250 號を發行し、全國の各幼稚園保育所をはじめ、健全な家庭から、學齡前の幼児に無条件に與へられる代表的な繪本として廣々の好評を蒙りてをります。先頃連合軍總司令部 C I E より發表ありましたものゝ中にも、アメリカにおいても類誌のない獨自のものであるとの御言葉がありました。企画、編集、用紙、着色、製本凡ゆる面に不斷の精進をつけ、號は號を追つて益々良いものを世に送りたいと努力してをります。次代の日本を背負う愛児のためのこよなき心の糧であります。

A 4 判・16 頁・月 1 回發行・定價 40 圓・送料 6 圓

### 好評

#### 實用保育遊戯 第一集

實 業 譯 齋 著

B 5 判 七〇頁 上製美本 一八〇圓 一・二二圓  
 △保育遊戯の研究と實地指導のために二十數年の經驗をもち、更にその生涯をそのために捧げる著者が、保育遊戯の指導課程に基いて研究された教材集。近く、保育遊戯「音楽とリズム」についての指導方針を理解する上にもこよなき参考書である。

#### 人形芝居脚本集

倉 橋 惣 三 序  
 菊 池 フ ジ ノ 著 共 著  
 徳 久

B 6 判 一八〇頁 上製 一五〇圓 一・二二圓  
 △人形芝居の保育價值については今更のべるまでもない。本書は先に出版され、廣々の好評を博した新版同書に増補改訂版である。正に人形芝居シナリオの定本といふべきもの。

#### 幼稚園お話集 上・下

倉 橋 惣 三 編  
 日 本 幼 稚 園 協 會 編

A 5 判 二〇〇頁 美本 上製 各二〇〇圓 一・二二圓  
 △これまた「お話集」の定本といはれた舊刊の増補改訂版である。ほとんど全部にわたつて改訂増補をこころみ光茫いやすす好著となつた。

#### やさしいリズム遊びと行進曲

玉 山 英 光 作 曲  
 賀 來 琢 磨 撰 付

B 5 判 上質紙使用 美本 九〇圓 一・一六圓  
 △新しい保育内容充實の爲、幼児才能音楽教育の立場から一日の保育の中より描寫してリズム遊びの音楽と行進曲にまとめた、幼稚園・保育所向けの良い参考書である。

發 行 所

東京 都 千代田 區 神田  
 神保町 二丁目 四番地

株 式 會 社

フ レ ー ベ ル 館

振替 口座 東京  
 一 九 六 四 〇 番